

責任者	理工学部長	担当部局	理工学部
-----	-------	------	------

1 理工学部の理念、目的、各種方針

理工学部の理念	変更の有無
自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する。	有・ <input checked="" type="radio"/>
理工学部の目的	変更の有無
<p>自然科学・科学技術の幅広い分野にわたり、基礎から応用まで相互に連携しつつ、常に先進的でレベルの高い研究を行う。また、確固とした専門的知識と研究技法を身につけ、基礎知識を課題解決に繋げる柔軟な思考力を養うとともに、未知の問題を発見し挑戦していく創造力あふれる科学者・技術者を育てる。さらに、専門的能力に加えて幅広い教養教育およびキリスト教主義教育で培われた豊かな人間性と倫理観を備え、国際的に活躍し社会貢献できる世界市民を育成する。</p> <p>数理科学科 自然科学を学ぶ上で不可欠であり、自然科学のどの分野においても極めて重要な役割を果たしている数学を、理論と応用の両面から教育・研究し、柔軟で論理的な思考能力を持つ人材を育成する。数学の基礎理論を身につけ、数学的能力、コンピュータを思考の道具として駆使していく能力、数学の応用能力を養い、理系はもとより文系の分野も含めて幅広い分野でその能力を発揮できる人材を育てる。</p> <p>物理学科 物理学の理解に必要な数学の基礎知識と応用力を習得し、力学・電磁気・熱現象等のマクロな物理学から量子力学、相対性理論、統計力学等の現代物理学までの物理法則の深いレベルでの理解をはかる。実験や演習を通して基礎と応用の両面で論理的思考能力と専門性を必要とする職業に対応できる能力を培うと同時に、視野を広め、既成の概念や常識に挑戦し、他の学問領域に進出していくことができるだけのチャレンジ精神と創造性を有する人材の育成をはかる。</p> <p>先進エネルギーナノ工学科 グリーンイノベーションの基盤となる、エネルギーを「創る」、「蓄える」、「運ぶ」、「有効に使う」の4つの分野において、基礎から応用までの幅広い知識を学生に獲得させる。物理学・化学・数学の学習をベースに、次世代のエネルギー創生、蓄積、輸送、変換をナノテクノロジーを駆使して実現する創造力(イノベーション力)を養い、我が国が抱えるエネルギー問題に新たな視点から取り組むことのできる人材を育成する。</p> <p>化学科 化学の基礎である物質の構造・物性・反応について、とくに物質の構造や機能の分子レベルでの解明法、既知・新規機能物質の合理的な合成法等を教授し、将来、研究・開発に携わることのできる優れた人材を育成する。さらに、現代社会のニーズに応じた明瞭な社会貢献を目指し、既存の化学から新領域へ挑戦できる人材を養成する。</p> <p>環境・応用化学科 地球環境問題に関連するさまざまな課題に対して化学を基軸としたアプローチによって柔軟に取り組み、国際的に活躍できる個性豊かな人材の育成を目指す。具体的には、原子・分子の世界から地球レベルの問題まで幅広い知識と深い専門性を有し、多角的な視点を身につけることによって、環境・応用化学分野に深い関心を抱き、新しい課題に挑戦する情熱と知恵を持った人材の養成をはかる。</p> <p>生命科学科 環境、食糧、エネルギー、医療など、21世紀の重要課題の解決および環境との調和を保つ社会構築に貢献する研究、教育および社会連携を目標とする。広い視野にたった倫理観を有し、生命現象を分子レベルから理解する基礎能力を修得し、応用できる人材を養成する。</p> <p>生命医化学科 先端医療や製薬など、ヒトの疾病治療や健康維持に貢献するために、医化学を共通の基盤として生命科学や情報学を基礎医学系分野に応用できる人材の養成を目指す。ヒトの細胞やマウスなどの哺乳動物モデルを用い、生命科学や情報学の知識および生命に対する健全な倫理観を有する人材を育てる。</p> <p>情報科学科 健全な情報化社会をリードし、新たな情報技術を創造できる人材の育成を目指す。特に高度情報化社会に必要なソフトウェアと情報ネットワークを中心とした技術の開発・研究に従事する技術者の養成を行う。また、情報科学以外の自然科学・社会科学の分野とも繋がりを強め、情報通信産業、ソフトウェア産業及びコンテンツ産業に高度な知識を持った人材を供給し、新しい科学・技術・文化の領域において社会貢献を果たす。</p> <p>人間システム工学科 人間をトータルシステムとして探求する工学的視点を中心に据え、メディアやロボティクス等の魅力ある動機付けのもとに、その基礎となる数理科学を確実に身につけさせる。演習を重視したカリキュラムにより、感性・脳科学、信号処理、制御、センサなど現実に即した課題の学習・研究を通して論理的思考力・問題解決力・自己管理能力・リーダーシップ等を兼ね備えた学生を輩出し、新しい文化の形成において社会貢献を果たす。</p>	有・ <input checked="" type="radio"/>
学位授与方針(DP)	変更の有無
<p><数理科学科> 関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「Mastery for Service」を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、理工学部数理科学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。</p> <p>1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢</p> <p>(1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。</p> <p>(2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。</p> <p>2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性</p> <p>(1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。</p> <p>(2) 数理科学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。</p> <p>(3) 数理科学分野における基礎的な技能を修得している。</p> <p>(4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。</p>	<input checked="" type="radio"/> ・無

- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。
3. [技能・表現]実践的な学習技能とコミュニケーション力
- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。
4. [思考・判断]課題解決のための総合的思考・判断力
- 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

<物理学科>

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の特徴なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

物理学科では理工学部教育理念の下で、物理学の分野において、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤とした教育研究を行ない、人類の進歩に資する人材を輩出する。ここに、物理学科は学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度]自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢
- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。
2. [知識・理解]幅広い知識と深い専門性
- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 物理学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 物理学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。
3. [技能・表現]実践的な学習技能とコミュニケーション力
- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。
4. [思考・判断]課題解決のための総合的思考・判断力
- 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

<先進エネルギーナノ工学科>

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の特徴なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、理工学部先進エネルギーナノ工学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度]自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢
- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。
2. [知識・理解]幅広い知識と深い専門性
- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 先進エネルギーナノ工学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 先進エネルギーナノ工学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。
3. [技能・表現]実践的な学習技能とコミュニケーション力
- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。
4. [思考・判断]課題解決のための総合的思考・判断力
- 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

<化学科>

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の特徴なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、理工学部化学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度]自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢
- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。
2. [知識・理解]幅広い知識と深い専門性
- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 化学における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 化学における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。
3. [技能・表現]実践的な学習技能とコミュニケーション力
- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。
4. [思考・判断]課題解決のための総合的思考・判断力
- 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

<環境・応用化学科>

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の特徴なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、理工学部環境・応用化学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度]自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢
- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。
2. [知識・理解]幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 環境・応用化学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 環境・応用化学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。

3. [技能・表現]実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断]課題解決のための総合的思考・判断力

現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

<生命科学科>

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の特徴なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部理念の下、理工学部生命科学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度]自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。

2. [知識・理解]幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 生命科学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 生命科学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。

3. [技能・表現]実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断]課題解決のための総合的思考・判断力

現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

<生命医化学科>

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の特徴なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部理念の下、理工学部生命医化学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度]自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。

2. [知識・理解]幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 生命医化学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 生命医化学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。

3. [技能・表現]実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断]課題解決のための総合的思考・判断力

現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

<情報科学科>

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の特徴なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部理念の下、理工学部情報科学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度]自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。

2. [知識・理解]幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 情報科学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 情報科学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。

3. [技能・表現]実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断]課題解決のための総合的思考・判断力

現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

<人間システム工学科>

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の特徴なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部理念の下、理工学部人間システム工学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度]自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

(1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
 (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。

2. [知識・理解]幅広い知識と深い専門性
 (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
 (2) 人間システム工学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
 (3) 人間システム工学分野における基礎的な技能を修得している。
 (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
 (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。

3. [技能・表現]実践的な学習技能とコミュニケーション力
 (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
 (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断]課題解決のための総合的思考・判断力
 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

教育課程の編成・実施方針(CP) 変更の有無

<数理科学科>
 理工学部数理科学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、基礎科目、コンピュータ科目、発展科目、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部数理科学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

[総合教育科目]
 「キリスト教科目」
 初年次に担当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

[英語教育科目]
 自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に担当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

[総合選択科目]
 社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

[専門教育科目]
 「基礎科目」
 主に低学年次に担当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「コンピュータ科目」
 各専攻分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「発展科目」
 主に高学年次に担当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」
 主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部数理科学科 カリキュラム・マップ(概要)
 (ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3		4
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	必修科目				○						
	基礎科目				○						
	コンピュータ科目					○			○		
	発展科目						○	○		○	
	専門選択科目		○	○							

<物理学科>
 理工学部物理学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は物理系科目(卒業研究科目、コア科目、実験科目、選択科目)、数学系科目、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部物理学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

[総合教育科目]
 「キリスト教科目」
 初年次に担当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

[英語教育科目]
 自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に担当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

[総合選択科目]
 社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

[専門教育科目]
 「物理系科目」
 「卒業研究科目」
 4年次に担当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「コア科目」
 各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「実験科目」
 各専攻分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「数学系科目」
 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」
 主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

○・無

理工学部物理学科 カリキュラム・マップ(概要)

(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3		4
		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	物理系科目	卒業研究科目	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		コア科目				○					
		実験科目				○	○	○		○	○
	数学系科目				○						
	専門選択科目				○	○	○		○	○	

<先進エネルギーナノ工学科>

理工学部先進エネルギーナノ工学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(基礎科目<数学系、物理系、化学系>、実験科目、発展科目、先端科目)、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部先進エネルギーナノ工学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

[総合教育科目]

「キリスト教科目」

初年次に担当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に担当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

[専門教育科目]

「卒業研究科目」

4年次に担当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「基礎科目」

主に低学年次に担当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「実験科目」

各専攻分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「発展科目」

主に高学年次に担当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「先端科目」

主に高学年次に担当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部先進エネルギーナノ工学科 カリキュラム・マップ(概要)

(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3		4
		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	卒業研究科目		○					○	○		○
	基礎科目				○						
	実験科目				○	○			○		
	発展科目						○				
	先端科目							○			
	専門選択科目			○							

<化学科>

理工学部化学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(基礎科目、物理分析化学科目、有機無機化学科目)、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部化学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

[総合教育科目]

「キリスト教科目」

初年次に担当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に担当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

[専門教育科目]

「卒業研究科目」

4年次に担当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「実験科目」

化学における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「基礎科目」

主に低学年次に担当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「物理分析化学科目」

主に高学年次に担当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「有機無機化学科目」

主に高学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部化学科 カリキュラム・マップ(概要)

(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3		4
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	卒業研究科目		○					○		○	
	実験科目				○	○			○		
	基礎科目				○						
	物理分析化学科目						○	○			
	有機無機化学科目						○	○			
	専門選択科目			○							

<環境・応用化学科>

理工学部環境・応用化学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(数学・物理科目、地学・生命・情報科目、基礎科目、発展科目)、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部環境・応用化学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

[総合教育科目]

「キリスト教科目」

初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

[専門教育科目]

「卒業研究科目」

4年次に配当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「数学・物理科目」

主に低学年次に配当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「地学・生命・情報科目」

主に低学年次に配当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「基礎科目」

主に低学年次に配当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「発展科目」

主に高学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部環境・応用化学科 カリキュラム・マップ(概要)

(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3		4
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	卒業研究科目		○					○		○	
	数学・物理科目				○	○					
	地学・生命・情報科目				○	○					
	基礎科目				○						
	発展科目						○	○	○		
	専門選択科目			○							

<生命科学科>

理工学部生命科学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(基礎科目、発展科目、先端科目)、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部生命科学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

[総合教育科目]

「キリスト教科目」

初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

[専門教育科目]

「卒業研究科目」

4年次に配当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「基礎科目」

主に1学年次に配当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「発展科目」

主に2学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「先端科目」

主に3学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部生命科学科 カリキュラム・マップ(概要)

(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3		4
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	卒業研究科目		○					○	○	○	
	基礎科目				○	○					
	発展科目						○	○			
	先端科目						○	○			
	専門選択科目			○							

<生命医化学科>

理工学部生命医化学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(基礎科目、発展科目、先端科目、生命科学科目)、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部生命医化学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

[総合教育科目]

「キリスト教科目」

初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

[専門教育科目]

「卒業研究科目」

4年次に配当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「基礎科目」

主に低学年次に配当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「発展科目」

主に高学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「先端科目」

主に高学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部生命医化学科 カリキュラム・マップ(概要)

(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3		4
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	卒業研究科目		○					○	○	○	
	基礎科目			○					○		
	発展科目				○				○		
	先端科目					○	○				
	専門選択科目			○							

<情報科学科>

理工学部情報科学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(情報科学実習科目、人間システム工学実習・実験科目、基礎科目、発展科目、人間システム工学系科目)、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部情報科学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

[総合教育科目]

「キリスト教科目」

初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

[専門教育科目]

「必修科目(卒業研究科目を除く)」

低学年時に配当し、専攻分野において必須の基礎的な知識と技能を講義・実習を通じて習得させる。

「卒業研究科目」

4年次に配当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「情報科学実習科目」

情報科学分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「人間システム工学実習・実験科目」

人間システム工学分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「基礎科目」

主に低学年次に配当し、専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「発展科目・人間システム工学系科目」

主に高学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部情報科学科 カリキュラム・マップ(概要)

(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3		4
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	必修科目(卒業研究科目を除く)				○	○			○		
	卒業研究科目		○					○		○	
	情報科学実習科目				○	○			○		
	人間システム工学 実習・実験科目						○				
	基礎科目				○						
	発展科目・人間システム工学系科目						○	○			
	専門選択科目			○							

<人間システム工学科>

理工学部人間システム工学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(人間システム工学実習・実験科目、情報科学実習科目、基礎科目、発展科目、情報科学系科目)、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部人間システム工学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

[総合教育科目]

「キリスト教科目」

初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

[専門教育科目]

「必修科目(卒業研究科目を除く)」

低学年時に配当し、専攻分野において必須の基礎的な知識と技能を講義・実習を通じて習得させる。

「卒業研究科目」

4年次に配当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「人間システム工学実習・実験科目」

人間システム工学分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「情報科学実習科目」

情報科学分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「基礎科目」

主に低学年次に配当し、専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「発展科目・情報科学系科目」

主に高学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部人間システム工学科 カリキュラム・マップ(概要)

(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3		4
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	必修科目(卒業研究科目を除く)				○	○			○		
	卒業研究科目		○					○		○	
	人間システム工学 実習・実験科目				○	○			○		
	情報科学実習科目						○				
	基礎科目				○						
	発展科目・情報科学系科目						○	○			
	専門選択科目			○							

学生の受け入れ方針(AP)	変更の有無
<p>【関西学院大学(学士課程)】</p> <p>I. 関西学院大学アドミッション・ポリシー 世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。 関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。 そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多角的に評価することを基本的な方針としています。</p> <p>II. 各学部のアドミッション・ポリシー 理工学部アドミッション・ポリシー 自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義教育を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、次のような学生の入学を期待します。 <理工学部が求める学生像> ・自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって人類の進歩に貢献しようとする学生 ・理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ・人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生 ・日本語および英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生 以上の求める学生像に基づいて、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施します。高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価します。</p> <p>III. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー 1. 一般選抜入学試験 一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。 一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。 全学日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。 全学日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述型」による入学試験も実施しています。 学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語(記述式含む)」を必須とし、「国語(記述式含む)」「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部では「国語(記述式含む)」「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語」「国語」の2科目による筆記試験を行っています。教育学部については初等教育コースの主体性評価方式の入試において、高等学校における生徒会活動、学校行事、課外活動等でのリーダーシップを、調査書と提出書類を合わせて評価する入学試験を実施します。 理系入学試験においては全学日程・学部個別日程ともに、本学で学ぶために必要な「英語(学部個別日程のみ記述式含む)」「数学(記述式)」を必須とし、理科(記述式)「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。</p> <p>一般入学試験関学独自方式日程は、英語・数学科型、関学英語併用型、関学数学併用型の3方式を実施しています。英語・数学科型は、関西学院大学独自の「英語(記述式含む)」と「数学(記述式)」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。関学英語併用型・関学数学併用型は、関西学院大学独自の「英語(記述式含む)」または「数学(記述式)」に、大学入試センター試験の教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。</p> <p>大学入試センター試験を利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入試センター試験で実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入試センター試験の得点のみで合否判定を行います。1月出願においては、総合政策学部3科目英数型を除く文系学部は「英語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施しています。理工学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え科目数を設定し、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。3月出願においては、文系学部は「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。 また、大学入試センター試験を利用する入学試験(1月出願 英語検定試験活用型)は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入試センター試験の教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。</p> <p>2. グローバル入学試験 グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラムに積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に5つのカテゴリーで実施する入学試験です。</p> <p>① 国際貢献活動を志す者のための入学試験 国際貢献活動を志す者のための入学試験は、関西学院大学が先駆として実施している学生の国際社会貢献活動プログラムに参加することを志す者で、秀でた英語コミュニケーション能力を有し、国際的課題に関し興味を持ち課題解決のための提案を行い、実践しようとする意欲を持つ者を対象とした入学試験です。英語検定試験においてCEFR B2以上を有する生徒、課題研究や模擬国連等に取り組み知識・技能、思考力・判断力・表現力を有し主体性・多様性・協働性を高めた課題解決能力を有する生徒を対象に出願資格を設定し評価を行っています。一次審査においてはこれらの実績や成果と、提出された志望理由書等の書類と合わせた書類審査と口頭試問・適性面接審査により評価を行います。口頭試問・適性面接審査では日本語および英語による面接により、国際的な知識や英語コミュニケーション能力、発展途上国でのプログラムに参加するために必要なチャレンジ精神、価値観や粘り強さを評価しています。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。</p> <p>② 英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験 英語能力、国際経験を有する者を対象とした入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において国際社会で活躍する能力を身に付けることを志し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、もしくは国際交流体験による異文化社会における経験を有する者で、国際的課題に関し興味をもち課題解決のための提案に意欲を有する者を対象とした入学試験です。出願資格として、英語検定試験において(CEFR B1 程度以上)を有する生徒、海外における留学経験を有する生徒、模擬国連等に取り組み問題解決能力を育んだ生徒、英語弁論大会、英語エッセイコンテスト等において入賞した経験を持つ英語コミュニケーション能力を有する生徒を対象に設定し、調査書など提出された書類とあわせて、「主体性」を中心とした書類審査を行っています。また、英語を題材とした論述筆記試験、日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。</p> <p>③ インターナショナル・バカロレア入学試験 インターナショナル・バカロレア入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において、国際社会で活躍する能力を身につけることを志す者で、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP(ディプロマ・プログラム)の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有する者を受け入れるための入学試験です。出願時においてフルディプロマを取得済みの者でスコアが32ポイント以上の者、もしくは取得見込でIBPREDICTED SCOREが出願時に32ポイント以上であるものは英語論述審査が免除となります。また日本的一条校において上記のスコアを有する者は日本語小論文が免除となります。これに満たない者については、英語を題材とした論述試験・日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する一次審査を行います。二次審査においては学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。</p> <p>④ グローバルキャリアを志す者のための入学試験(英語エッセイ方式) グローバルキャリアを志す者のための入学試験は関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)もしくは総合政策学部独自のカリキュラムである(グローバルキャリア・プログラム)において、国際社会で活躍することを志し、英語コミュニケーション能力をもつ者を対象とした入学試験です。国際社会</p>	<p>④・無</p>

で活躍する能力を身につけることをめざし、現代社会で話題となっている様々なニュース、トピックに対して、自身の知識や考えを英語で伝えることのできる生徒を対象に実施します。一次審査においては筆記審査を行い、現代社会で話題となっているトピック4題のうち、2題を選択し、それぞれ英語300語程度のエッセイを書いてもらいます。また自分の書いたエッセイに適切な英語のタイトルをつけてもらいます。トピックはいずれも英語で書かれており、それらに関する情報や資料は掲載されていません。そのトピックについての知識、考え方も評価の対象とします。新聞などで社会の動きを知っていることも問われます。二次審査においては、個人面接を行い学ぶ意欲や人間性を評価し書類審査と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

⑤ グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験は国際的に活躍する科学者や技術者となることを志し、自然科学に関する科目について一定の学力を有し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、インターナショナル・バカロレア資格を有する者、高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験を有する者もしくは自然科学分野における特記すべき国際交流経験を有する者、国際科学技術コンテストに出場した経験を有する者を出願資格として設定し、調査書等提出された書類とあわせ「主体性」を中心に書類審査を行います。また、面接審査では志望する学科の学びに関する口頭試問により「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに学ぶ意欲、人間性を評価し、書類審査の結果と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、推薦書、志望理由書等の提出書類による書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

① 院内推薦入学

1) 関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2) 関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

② 継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等部の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

③ 提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、各校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

④ 協定校推薦入学

1) キリスト教学校校

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2) グローバル校

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立つて国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

3) グローバル+キリスト教校校

関西学院大学協定校推薦入学は、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立つて国際社会に貢献できる人材として、そして高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒も受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

⑤ 指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

理工学部

関西学院大学理工学部への入学を強く希望する優秀な生徒で、自然科学・科学技術の基礎知識と能力の修得に情熱を有する者を総合的学力評価に基づく推薦制度により迎え入れ、将来性ある人材に育成することを目的としています。

審査では出願時提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

⑥ 指定校推薦編入学

人間福祉学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

教育学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

総合政策学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

理工学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を高等専門学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

4. 公募制推薦入学試験

1) スーパーグローバルハイスクール対象公募推薦入学試験

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー”Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。

2014年度よりスタートした文部科学省スーパーグローバルハイスクール事業は、急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付けることを重視し、課題研究と高大連携を二本の柱として教育プログラムの開発を目指しています。

このスーパーグローバルハイスクールや本学が教育連携を行う高等学校において、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーションを行います。課題研究を通じて培った「知識・技

能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的、多元的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

2) スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験

(スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験)

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー「Mastery for Service」を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育てることを使命としています。また関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎知識・技能と柔軟な思考力を有しその能力を高い倫理観のもとで発揮しうる、課題発見・解決能力に優れ創造性と未知に挑戦する気概に溢れた人材の育成を目指しています。

文部科学省スーパーサイエンスハイスクール事業の趣旨は、高等学校及び中高一貫教育校における先進的な理数教育を通じ、生徒の科学知識・技能と科学的思考力・判断力を高めることにより将来の国際的な科学技術系人材の育成を図ることとなっています。

スーパーサイエンスハイスクールにおいて、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーション・口頭試問を行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的、多元的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

3) 理工学部 公募制推薦入学試験

物理学科

物理学科では、自由な発想と幅広い思考を武器に様々な問題に取り組める人材の育成を目指すにあたり、本入試において、物理学や天文学の体系的な知識・技能の習得とその活用に高い情熱を有する者を求めます。

審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに物理学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

生命科学科・生命医化学科

生命科学の知識及び技術の習得に情熱を有し、関西学院大学理工学部に入学を希望する優秀な者を推薦制度によって迎え入れることにより、生命科学の発展に資することのできる創造性豊かな人材の育成に努めることを目的としています。

審査においては、小論文審査を行い、論理的な思考力と表現力の有無を判定します。また面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに生命科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

生命医化学科

生命医化学の知識及び技術の習得に情熱を有し、関西学院大学理工学部に入学を希望する優秀な者を推薦制度によって迎え入れることにより、生命医化学の発展に資することのできる創造性豊かな人材の育成に努めることを目的としています。

審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに生命医化学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

人間システム工学科

人間システム工学科では、感性豊かな映像や音楽を実現するメディア技術、あるいは人間と実空間・環境との関わりを考えるユビキタス・ロボティクス技術に必要な学問を指向します。またデザインやインタラクションといった先端学際領域(様々な技術分野を統合して解決する学問分野)の観点から人間をトータルシステムとしてとらえた教育と研究を行います。人間の特性や感性をよりよく理解し、社会のニーズに対応できる実力を蓄えるだけでなく、新しい人と人工物のインタラクション、および人工物を介した人と人のインタラクションを創造できるような人材を育てます。

このような趣旨のもとに本公募制推薦入試では従来の学力試験ではとらえきれない能力を持ち、可能性を秘めた学生を募ります。コンテンツ制作(映像・音楽作品、ゲーム、携帯アプリ、フリーウェアやインタラクティブアート等を幅広く対象とする)やロボット等のハードウェアを伴うシステムの制作経験のある創造性豊かな学生を求めます。

審査においては、作品審査を行い、本学人間システム工学科の講義・演習を理解するために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査(口頭試問)を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類・作品審査の結果と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

5. AO入学試験

関西学院大学のスクールモットーは「Mastery for Service(奉仕のための練達)」。これは、第4代院長 C.J.L.ベーツ宣教師が学生たちに与えた言葉で、「奉仕のための練達」と訳されています。わかりやすく言えば、「人々に奉仕できる、社会に役立つ知識と人間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」ということです。

本学が目指す全人教育は、専門知識の修得だけでなく、その専門知識を社会の善として活用し人類の幸福に資する知識とするための教育です。そのためには、知育教育だけでなく、スポーツや芸術などの情操教育や社会貢献活動などが大きな役割を果たします。関西学院大学では、その教育目的を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求めています。

AO入学試験は、従来の教科科目の筆記試験だけでは測ることができない多様な能力や、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性、あるいは将来性・可能性などを、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の観点から多面的かつ積極的に評価する制度です。本学のAO入学試験は、各学部が独自のアドミッション・ポリシーを掲げてそれぞれの審査方法で選考する方式であり、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、各学部が定める受験資格を満たしていれば、自分の意志で出願できる自己推薦型です。

理工学部

関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎をしっかり学び、それらを応用に生かしていく能力を養いたいと考えている若者たち、本学の建学の精神を背景にして、人格形成、自己の確立に努め、自然科学の知識や能力に優れているだけでなく、人間として深みのある科学者や技術者になりたいと考えている若者たち、そのような人々を対象にAO入試を実施します。豊かな自然の中にある神戸三田キャンパスに、最新鋭の研究装置・設備を備えた理工学部で、自然科学の真理の探究に挑戦してみませんか。そんな意欲のある若者たちが多数受験してくれることを願っています。

< 数理科学科 >

数学は人間の持つ論証能力を用いて、数や図形の性質の探求、自然現象と社会現象の記述などを対象とする学問です。従来は、具体的事例から抽象されたモデルやその性質を調べる抽象的側面が強調されたこともありますが、現在では、高度に発達した数学を自然現象と社会現象に適用して理解を深め、科学技術の発展や人間活動に貢献するという方向が顕著になってきています。

2009年度より新設された数理科学科は物理学科数学専攻を発展拡充したもので、従来の数学と応用にも範囲を広げた応用数理の2つのコースがあります。ただし、コース分けは4年生からで、それまでは大学数学の基礎知識の修得とその応用能力の向上に努めます。数学の応用に当って必須のコンピュータ運用能力の向上を計ることもその一環です。

数理科学科では、AO入試において、高校生、社会人や帰国生徒などの枠を超えて広く、「自由な発想」ができて「確かな思考力」を備えた、優秀な学生を求めます。

審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに数理科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類の結果と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

< 物理学科 >

電子機器をはじめ、私達の身の回りで物理学の知見を利用しないものは少ないでしょう。この事実は、物理学の特徴をよく表しています。

物理学は、様々な現象に共通する少数の機構や原理を見出し、それらによって多くの現象を理解しようとします。こうして得られた重要な原理は、理解しなかった現象のみならず、より広い現象にも適用できることがあります。この、個々の対象にとらわれない物理学の考え方・方法が、単なる技術改良に留まらない、今までに存在しなかった新しい技術の創生を導いてきました。

物理学をしっかり学ぶことで、その知識と応用力が得られますが、何よりも、その学びの過程で、現状を論理的に分析して課題を発見し、対応を考える能力が鍛えられます。よって、物理学を学ぼうとする者には、まず、データに基づきながら物事を幅広くとらえ、粘り強く考えようとする強い意欲が必要です。そして、現代社会は、このような能力・意欲をもつ人材を求めています。

物理学科では、AO入試により、基礎学力をもとに暗記にたよらない自由な発想と幅広い思考のできる／意欲をもつ者を求めます。そして、物理学科が進められている、宇宙物理、物性実験、理論物理などの研究活動を通じて、社会に貢献できる人材を育成したいと考えています。

審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに物理学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価

し、出願時提出書類の結果と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

<先進エネルギーナノ工学科>

地球温暖化を防止し、持続可能な社会を実現するためには、新たなエネルギー技術の開発が不可欠であります。そのためには、従来の技術の枠組みに捉われない、学際的な新たな取り組みが必要です。

先進エネルギーナノ工学科は、ナノテクノロジーをベースとした新しいエネルギー科学・工学の教育研究を通して、上記課題の解決にチャレンジします。本学科では、「エネルギーを創る」、「蓄える」、「運ぶ」、「有効に使う」の4つの分野において、「ものづくり」をキーワードに、基礎から応用までの体系的な教育研究を行うことにより、今度のグリーンイノベーションの核となる技術と人材の創出を目指しています。

本学科の卒業生は、電子・電気、素材、通信、自動車、重化学工業、エネルギーなどの産業や、エネルギー政策に携わる行政などの分野での活躍が期待されます。本学科で培った基礎力・応用力・柔軟な思考力を駆使して、我が国が抱えるエネルギー問題に新たな視点から取り組むことができる人材として活躍します。

このような趣旨のもと、先進エネルギーナノ工学科ではAO入試によって、持続可能な社会を実現するための新しいエネルギー科学・工学に強い興味をもち、主体的な学びを通して成長しようとする意欲的な学生を募ります。

審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに先進エネルギーナノ工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類の結果と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

<情報科学科>

情報技術は社会のニーズの多様化に応えながら、日進月歩の発展を遂げるとともに、インターネットやスマートフォンなどの通信技術と連動することで、われわれの社会に深く浸透しています。

情報科学科では、次世代の情報通信を支える先進的な技術を開発できる人材を育成するため、情報システムとネットワークシステムに関する教育と研究に取り組んでいます。さらに、情報通信技術を基盤とした新しい産業や生活スタイルの創造を目指しています。このため、基礎的な理論を十分に学んだ上で、実践的なプログラミングや応用技術を駆使できる潜在力を秘めた、意欲と知的好奇心に富んだ学生に是非入学して欲しいと考えています。

このような趣旨のもと、情報科学科ではAO入試によって、学力試験のみではとらえきれない能力を持ち、情報通信技術およびそれを活かした分野で活躍する可能性を秘めた学生を広く募ります。プログラム制作(CやJavaなどによるプログラム、スマートフォン用アプリ、ホームページ、ゲーム等)や、情報処理やインターネットに関連したプロジェクト(文化祭などでの情報機器を使った展示、クラブのホームページ作成、情報機器を使ったボランティア活動等)の経験のある創造力豊かな学生を求めます。

審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学情報科学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査(口頭試問)を行い、情報科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

<人間システム工学科>

ユーザの好みや感性に合わせた製品の開発など、人間を中心としたものづくりが産業における主要な課題となっており、改めて人とコンピュータシステムとの関わりが注目されています。

人間システム工学科では、感性豊かな映像や音楽を実現するメディア技術、あるいは人間と実空間・環境との関わりを考えるロボティクス技術やユビキタス技術の研究分野を強化します。またデザインやインタラクションといった先端学際領域(様々な技術分野を統合して解決する学問分野)の観点から人間をトータルシステムとしてとらえた教育と研究を行います。人間の特性や感性をよりよく理解し、社会のニーズに対応できる実力を蓄えるだけでなく、新しいヒューマンシステムインタラクションを創造できるような人材を育てます。

このような趣旨のもと、本学科ではAO入試によって、従来の学力試験ではとらえきれない能力を持ち、可能性を秘めた学生を広く募ります。コンテンツ制作(映像作品、音楽作品、ゲーム、携帯アプリ、アート等幅広く対象とする)やロボットの制作、またはこれらに関連したプロジェクト(文化祭や卒業式での映像を用いたイベントなど)の経験のある創造性豊かな学生を求めます。理系に限定せず、人間の心理的な特性や感性に興味を持つ意欲のある学生を求めます。

審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学人間システム工学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断します。

6. 帰国生徒入学試験

国際化時代に伴い、海外において勤務する日本人の数は多数にのぼっています。また、外国文化摂取のために長期留学する者も増加しています。この現象に伴う帰国生徒の教育問題は高い関心事となっています。しかし、海外での教育条件や生活環境などの違いによって大学に進学できる能力を有しながらも、日本の大学入試制度に対応できないために、正当に評価されていないという問題が指摘されてきました。これに対して、本学では、全国の大学に先駆けて1964年に帰国生徒の受け入れについての規程を制定し、その先進性で評価されています。

この入学試験は、帰国生徒の海外での経験を評価して受け入れるためであると同時に、多様な学生を受け入れることによってキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待し、いわゆる「多元的入試」の一環として行っています。諸外国で勉強してきた帰国生徒が海外での貴重な経験と知識を生かし、学内での相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長していくことを期待しています。

筆記試験を実施する学部については、英語、日本語に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価を行い、面接試験において海外での体験において培った主体性・多様性・協働性や、本学で学ぶ意欲について評価を行います。

7. 国連難民高等弁務官駐日事務所との協定による難民を対象とする推薦入学試験

「難民を対象とする推薦入学制度」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官(UHCR)駐日事務所との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。

日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。


国連難民高等弁務官(UHCR)駐日事務所の推薦に基づき、面接を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

8. スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

関西学院大学スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

この選抜入学試験制度は、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後は学業と課外活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化と課外活動の一層の振興に寄与することを目指すものです。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を筆記試験により評価を行います。一次合格者に対する二次審査は面接審査を実施し志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

<p>学生支援に関する方針</p>	<p>変更の有無</p>
<p>理工学部の理念に基づくアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに則り、学生一人一人が十分な教育を享受し、学位を取得し、さらには社会にはばたくために、修学・生活・進路において、適切な支援を行う。</p> <p>修学支援 アカデミック・アドバイザー制度 本学部では、担任教員がアカデミック・アドバイザーとなり、教学上の問題にきめ細かく対応している。 留年者及び休・退学者の状況把握と対処に関しては、理工学部で導入されている担任制を利用して、休学や退学を希望する学生や成績不振の学生に対する、担任による個別の相談と実態の把握に努めている。</p> <p>TA・RA・SA・メンターの活用 本学部では、教育補助者としてTAとLAを活用した取組を実施している。 基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎的な知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させるため、実験・演習科目を設置している。これらの実践を重視する科目では、個別指導を通じてきめ細かい教育を行うことが有効であるため、本学大学院生をTAとして雇用・配置し授業補助業務に従事させている。 また、自然科学・科学技術分野における共通言語である英語の修得を目指し、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させるために、低学年次を中心に言語教育科目を設置している。英語能力は、自然科学を学ぶ上で必須要件であり、研究の成果を世界に向けて発信していくためにも不可欠であるため、英語の授業において、英語能力に長けた本学部生をLAとして雇用・配置し、ネイティブ教員との会話や学修が困難な学生を支援することで、初年次の英語学修をスムーズに進められるよう注力している。</p> <p>リメディアル教育 数学基礎力テストの実施(理工学部) 理工学部では、入学後、数理科学科、環境・応用科学科以外の学生に数学基礎力テストを受験させている。合格点に達しなかった学生には合格するまで追試(全4回)を受けさせ、理工学部生に不可欠な数学基礎力を育成している。</p> <p>クレセントチューターの設置 アカデミックコモンズに各学科の大学院生をクレセントチューターとして配置し、気軽に勉学の仕方、レポートの作成法などのアドバイスを受ける事ができるようにしている。</p> <p>大学や学生支援機構の奨学金制度を必要な学生が申請できるよう、広く告知している。</p> <p>障がいを持つ学生など支援を必要とする学生には、学生総合支援センターと密に連携しながら、障がいの内容に対して適切な支援が受けられるように、学生個別に対応している。また、入学前や学期の始め等に、特に実験・演習科目において、新たに支援を希望する学生が居ないかアナウンスを行っている。全体一律な支援だけではなく、必要であれば、「障がい学生支援に関する基本方針」および「障がい学生支援実施基準(ガイドライン)」に準じ、「合理的な配慮」の範囲内で個人個人に特化した支援を行う。</p> <p>生活支援 学生の相談に応じる体制 相談に応じる体制の説明を新入生学生ガイダンスにおいて行っている。何か相談を希望するときは、担任、各学科の学生担当教員、副学部長(学生担当)、事務、その他誰でも相談し易い教員、カウンセリングルーム、先輩、などまずは一人で抱え込まないようにという指導を行っている。 特に、理工学部では担任制を導入しており、担任が学生生活で困った事や相談事が発生していないか等を積極的にヒアリングしている。成績配付時に相談内容を伝える学生も多い。相談等があった場合、担任が対応したり、場合によっては、担当教員や事務、さらには学生支援総合センターやカウンセリングの利用を促す場合もある。 理工学部では、各学科の特殊性があるため、各学科に学生委員を置き、相談を受けた担任教員と協力して問題解決にあたるシステムを構築している。もちろん、問題が大きい場合には、副学部長(学生担当)、学部長補佐(学生担当)も協力し、対応する。</p> <p>ハラスメント防止に向けた取り組み ハラスメント防止に向けた説明、ハラスメントを受けた場合の相談窓口などの説明を新入生学生ガイダンスにおいて行っている。 さらに、ゼミ単位で「キャンパスハラスメントミーティング」を実施し、報告書を提出する事を義務づけており、ゼミや研究室という狭い世界でのハラスメント防止に取り組んでいる。</p> <p>進路支援 キャリアセンター主催で、3年生対象に理工系学生対象キャリア支援プログラムが開催されている。2015年度は5月から12月までの間に、以下6回のキャリアガイダンス、「理工系学生の進路を考える」、「筆記試験対策」、「自己分析とエントリーシート作成」、「業界・企業・職種研究」、「面接対策～採用担当者の視点を知ろう～」、「理工系出身者の仕事を知る」が行われている。2月、3月には、「エントリー直前！フォローアップセミナー」、「学内企業説明会」が開催される。 また、5月中旬～7月上旬の期間に「理工系3年生対象 進路面談」が、学生個人と面接官との間で行われ、大学院進学、就職の両方の可能性について幅広くアドバイスをを行っている。これらに加え、文理共通の「インターンシップ応募説明会」、「SPIテストセンター 模擬試験」、「SPI 対策フォローアップセミナー」、「学内企業説明会」なども開催され、幅広い観点から学生の進路指導を行っている。 さらに、教員や理工学部OBを通して、企業の説明会が複数回開かれている。特に、これらの説明会は、学科や分野にある程度特化した説明会となる。</p>	<p>有・無</p>
<p>教員像</p>	<p>変更の有無</p>
<p>理工学部は、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”を自然科学・科学技術分野で実践し、国際的に活躍する世界市民を育むことを目指している。また、「愛をもって互いに仕えなさい」を学部のモットーとし、人間教育にも力を入れている。これらの学部の使命を達成するために求められる教員像を、次の通り定めている。</p> <p>(教育者として) キリスト教主義教育の精神を理解し、座学だけでなく実践的教育を通して学生の学修意欲を高め、学生の志や夢の実現に向けて適切に指導し、学生の成長を喜びとして誇りと情熱をもって教育に取り組む教員</p> <p>(研究者として) 専門分野において先端的研究を行い、学界や国際社会から高い評価を受け、社会に貢献し、かつ社会から尊敬される教員</p> <p>(組織の構成員として) 自らの優れた知識・能力を活用するとともに、他の教職員と協調して理工学部の発展、継続に寄与し、尊敬、信頼を得る教員</p> <p>(人として) 学識、識見はもちろん、人望、人徳、誠実さを備えた人として魅力ある教員</p>	<p>有・無</p>

教員組織の編制方針	変更の有無
<p>生き生きとした魅力ある学部として、教育・研究の活力を保ち、持続的に社会貢献できる体制を構築するために、教員組織の編成方針を次の通り定めている。</p> <p>①教員の年齢構成が、特定の年齢層に極端にかたよらないようにする。</p> <p>②女性教員を積極的に採用し、2020年4月時点で各学科の専任教員として少なくとも1名の女性教員が在籍するようにする。</p> <p>③任期制助教枠を利用して、若手教員を積極的に採用して教育・研究の活性化を図るとともに、若手教員をサポートする体制を整備する。</p> <p>④教員の研究分野は、多様性を保ちつつ各学科の特色を出すように配慮する。</p> <p>⑤英語教育充実のため、ネイティブ教員を積極的に採用するとともに、教員間の連携体制を整備する。</p> <p>⑥体験的教育の充実を図るため、実験や演習を補佐する教職員等を各学科に配置する。</p>	<p>有・</p>

2. 実施計画

(1) 必須型

実施計画(タイトル)	1-(1)-① 「Kwansei コンピテンシー」の策定と運用				帳票の有無	不要
内容	<p>本大学は、大学として「学部の区別なく学生が共通に身に付けるべき知識・能力・資質」(「Kwansei コンピテンシー」)を時代に即して新たに定め、各学部はそれを土台に「各分野における学位授与に必要な知識・技能」である DP(ディプロマポリシー)を再策定する。 また、策定された「Kwansei コンピテンシー」を基に大学として「学部の区別なく学生が共通に身に付けるべき知識・能力・資質」の到達状況を測定、評価する取組を推進する。</p>					
学部独自の取り組み内容						
<指標 1>						
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度		
目標						
実績	<p>※2019 年度中に、「Kwansei コンピテンシー」を獲得することを念頭に置く旨を、各学部のディプロマ・ポリシー(DP)に追記済。</p>					
年度毎の目標						
目標						
実績						
<指標 2>						
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度		
目標						
実績						
年度毎の目標	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度		
目標						
実績						
【2019 年度の進捗状況・今後の取り組み】						

実施計画(タイトル)	1-(1)-② 三つのポリシーに基づく教学マネジメントの推進(3ポリシーの見直し・検証、カリキュラム見直し・拡充、カリキュラムマップの整備)			帳票の有無	不要
内容	<p>本学は、大学として「学部の区別なく学生が共通に身に付けるべき知識・能力・資質」(「Kwansei コンピテンシー」)を時代に即して新たに定め、各学部・研究科はそれを土台に「各分野における学位授与に必要な知識・技能」であるDP(ディプロマポリシー)を策定する。このDPは、すべての学生が卒業/修了必要単位数を取得した段階で修得しているべき学修成果を表したものである。この基本原理を守るべく、学部・研究科は(a)DPの再確認(b)DPとCP(カリキュラムポリシー)の整合(c)シラバスの実質化(d)シラバスに沿った成績評価(e)DPとAP(アドミッションポリシー)の連動、を厳格に運用する。</p> <p>本学はこうした学部/研究科による三つのポリシーに基づく教学マネジメントを統括し、大学全体の内部質保証を推進することで、卒業する全ての学生の質を保証する。</p>				
学部独自の取り組み内容	<p>3つのポリシーについて、年度ごとに教授会において内容の検証を行っている。</p> <p>なお、2021年度の学部再編に向けて、理工学部をベースにした理学部、工学部、生命環境学部の各3ポリシーを策定中である。</p>				
<指標1>	3つのポリシーの定期的な確認・検証の実施				
年度毎の目標	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
目標	教授会において内容確認・検証 3学部設置準備委員会に置いて策定	3学部の教授会において内容確認・検証	3学部の教授会において内容確認・検証	3学部の教授会において内容確認・検証	
実績					
年度毎の目標	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	
目標	3学部の教授会において内容確認・検証	3学部の教授会において内容確認・検証	3学部の教授会において内容確認・検証	3学部の教授会において内容確認・検証	
実績					
<指標2>					
年度毎の目標	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
目標					
実績					
年度毎の目標	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	
目標					
実績					
<p>【2019年度の進捗状況・今後の取り組み】</p> <p>3つのポリシーについて教授会において内容の確認・検証を行った。DP、CPIについては学科ごとのものを新たに決定した。 また、2021年度の学部再編に向けて、理工学部をベースとしている理学部、工学部、生命環境学部の3つのポリシーの策定を進めた。</p>					

実施計画(タイトル)	1-(9)-① 入試制度改革への対応	帳票の有無	不要	
内容	<p>グローバル化や情報化の進展、少子高齢社会の到来など社会の在り方が急速に変わり、予測が難しい状況の中で、自ら問題を発見し、他者と協力して解決していくための力が必要とされており、2015年1月に文部科学省より「高大接続改革実行プラン」が発表され、高大接続改革は、「高校教育」「大学教育」そしてそれをつなぐ「大学入学者選抜」の一体的な改革で、それぞれについて様々な施策が進んでいる。「大学入学者選抜改革」においては、これまで以上に多面的・総合的に人物を評価する入試への転換を掲げ、大学入試センター試験を廃止し、思考力・判断力・表現力を一層重視した「大学入学共通テスト」を2020年度(2021年1月実施)より導入。大学入学共通テストでは、国語と数学に記述式問題を導入すること、英語については4技能を適切に評価するため民間の資格・検定試験を活用することが決まっている。また、各大学の個別選抜では、アドミッション・ポリシーの明確化とともに、より多面的な選抜方法にすることが求められている。一方、AO入試や推薦入試では、一部で「学力不問になっている」といった批判があることから、小論文やプレゼンテーション、大学入学共通テストなどを通じて、学力を問う試験を必須化する方針も示されている。</p> <p>このような状況において、本学においては学長が入試委員長として全学部長が入試委員となる入試委員会が中心となり、以下のような入試制度改革を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高大接続改革で求められる入試制度改革への対応 上記の改革を進めるため、本学ではすべての入試において「学力3要素」を評価する入試へと変えていく。また、SGUでもある本学においてはすべての入試において英語の4技能を評価する入試へと変えていく。合わせて、各種入試においても、現行やや一芸入試的な色合いの濃いAO入試においては高等学校での活動をしっかりと評価する入試への変更を、そして、現行SGH・SSH指定校に限定している公募推薦入試も課題研究を実践しているすべての高等学校に拡大し、高等学校での探究活動を評価する入試へと変更させていく。 2. 現行入試制度・募集人員の再検討 上記のような国の高大接続改革が進むと、例えば、国公立大学ではAO入試の割合が増加する。また、18歳人口の減少という人口構造の変化(少子化)により、より一層前倒し(各種入試への定員のシフト)によって学生を確保する必要が生じる。今後、各種入試と一般入試の定員比率の再検討とともに、各種入試の定員の見直しを進める必要がある。 3. 主体性等を評価するための入試体制強化やアドミッションオフィサー配置 上記のとおり、今後の大学入試においては、学力3要素を評価するため、小論文やプレゼンテーション、課題研究論文、面接や調査書など高等学校への学びをひとりひとり丁寧に評価する入試が拡大してくる。それに伴って当然、これまで入試選抜を担ってこられた教員だけでは対応することが困難となる。そのため、職員からも提出書類の評価を行うアドミッションオフィサーを配置することが求められる。今後、アドミッションオフィサーへの入試評価業務の委嘱を進めていく。 			
学部独自の取り組み内容	2021年度学部再編に伴い、各種入試、一般入試の制度を再構築し、各種入試の志願者増加と一般入試の偏差値アップとそのレベルの維持を目指す。			
<指標1>	偏差値			
年度毎の目標	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
目標	前年比上昇	前年比上昇	前年度維持	前年度維持
実績				
年度毎の目標	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
目標	前年度維持	前年度維持	前年度維持	前年度維持
実績				
<指標2>	各種入試の志願者数			
年度毎の目標	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
目標	前年比増	前年比増	前年比増	前年比増
実績				
年度毎の目標	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
目標	前年比増	前年比増	前年比増	前年比増
実績				
【2019年度の進捗状況・今後の取り組み】				
<p>2021年度の学部再編に向けて、一般入試・各種入試について種々検討を行った。 入試種別毎の定員、指定校推薦入試の条件設定や選定、各種入試の整理・新設、一般入試の実施科目・配点、等々である。 これらについて、KSC再編・活性化委員会、理系3学部合同設置準備委員会、建築学部も含めた4学部入試担当者会などで議論を重ねた。</p>				

実施計画(タイトル)	1-(12)-⑧ シラバスの実質化			帳票の有無	不要
内容	組織的な教育力を向上するため、三つのポリシーに基づく教学マネジメントを推進することが中心的な課題であり、そのための重点戦略としてシラバスの精緻化から取り組む。特に「授業目的」と「到達目標」を明確にすることで、カリキュラム全体の中での科目の位置づけや他の科目との比較が可能になり、科目間の相互関係を整理する契機となる。それによって CP や DP の適切性・妥当性といった上流に遡ることが可能となる。また、シラバスの精緻化は、授業外学修時間の増加につながる。				
学部独自の取り組み内容	理工学部・理工学研究科では全科目について各学科のカリキュラム担当教員がシラバスを一斉にチェックしている。また、2018 年度末にはネイティブ教員によるチェックを含めたシラバス英語化を実施した。				
<指標 1>	「学修行動と授業に関する調査」における、「あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思いますか。」についての学部平均得点。				
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
目標	4.0	4.0	4.0	4.0	
実績					
年度毎の目標	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	
目標	4.0	4.0	4.0	4.0	
実績					
<指標 2>					
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
目標					
実績					
年度毎の目標	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	
目標					
実績					
【2019 年度の進捗状況・今後の取り組み】					
理工学部・理工学研究科では全科目について各学科のカリキュラム担当教員がシラバスを一斉にチェックしている。					

実施計画(タイトル)	1-(13)-② 教職協働によるアカデミックアドバイスの仕組み確立			帳票の有無	不要
内容	<p>教職協働によるアカデミックアドバイスの仕組みを確立し、学生の学びをサポートし、残留生、退学者をださないキャンパスを目指す。アカデミックアドバイス制度は実施から4年がたち、現在行われている対象学生の見直しなどの検討も必要となっている。</p> <p>— 以下、SGU時の文章 —</p> <p>本学では、従来から成績不振者へのサポートを目的とした様々な指導を学部ごとに実施してきたが、GPAのさらなる活用と学生に対してより適切かつ高度な学修支援を行うという観点から、2015年度より「アカデミックアドバイザー制度」を全学的な仕組みとして導入する。</p> <p>アカデミックアドバイザーは、学部ごとに人数を定め、学部所属の専任教員から選出するものとする。各学部は修得単位数、GPA、出席状況のいずれか、もしくは複数を用いて指導対象となる学生の基準を定める。指導対象学生に対しては、アカデミックアドバイザーが個別面談および学修指導等の修学上の支援を行う。</p> <p>制度導入後は、教育力向上(ファカルティ・ディベロップメント)部会において本制度の運用状況に関する情報共有を行い、より一層の改善等に取り組む予定である。</p>				
学部独自の取り組み内容	理工学部では全学生を対象に入学時から卒業研究配属までの間に担任制度を実施しており、各学期開始前には成績を参照しながら履修指導を行っている。これにより成績などの表面的な問題はもちろん、修学上の問題やその背景にある諸問題に密接に対応することができている。				
<指標 1>	アカデミックアドバイザーによる面談対象学生のうち、面談を実施した学生の割合(面談実施率)。				
年度毎の目標	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
目標	56%	58%	60%	62%	
実績	<2019春:55%> <2018春:73%>				
年度毎の目標	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	
目標	64%	66%	68%	70%	
実績					
<指標 2>					
年度毎の目標	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
目標					
実績					
年度毎の目標	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	
目標					
実績					
【2019年度の進捗状況・今後の取り組み】					
2018年度までは成績発表を担任教員・指導教員による手渡しで行い、その際に履修指導も行ってきたが、2019年度はWebによる成績発表に試行的に切り替えた。その際に、成績発表後に履修指導期間を設け、担任教員・指導教員による履修指導を受けられる体制を整えた。					

実施計画(タイトル)	1-(13)-③ TA・LA・SAの活用推進			帳票の有無	要
内容	<p>LAの配置により、授業での教育支援(教員への支援を含む)、授業外での学修支援を強化する。初年次教育である導入科目等を対象としたLAについては制度開始から7年がたち、今後の在り方は新たなライティングサポート制度と合わせて考えていく。</p> <p>SAについては、特に全学科目情報科学科目の現状の課題を抽出し、現状のままか、外部委託するかを検討する。</p> <p>TAについては各学部では、①大学院生の減少で確保が難しい、②大学院生全員にあたらぬ、③月額報酬の場合、報酬に対して実働が少ない、人によって実働に差が生じる、④確保したいが他研究科生を重複採用できない、などの課題があり、①業務実働に合わせた報酬制度、②他研究科生の重複採用、③外部委託、などを検討することが考えられる。</p>				
学部独自の取り組み内容	理工学部ではカリキュラムWGを通じTAの配置要望を聴取し、配置科目や人数を検討・調整している。これにより授業担当者からどのような業務を指示できるのかと行った相談や問合せにも統一した対応ができています。				
<指標1>	TA、LA活用の効果検証の実施				
年度毎の目標	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
目標	カリキュラムWGにおいてTA、LA活用の効果検証を行う	理・工・生命環境学部3学部合同のカリキュラムWG(予定)においてTA、LA活用の効果検証を行う	理・工・生命環境学部3学部合同のカリキュラムWG(予定)においてTA、LA活用の効果検証を行う	理・工・生命環境学部3学部合同のカリキュラムWG(予定)においてTA、LA活用の効果検証を行う	
実績					
年度毎の目標	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	
目標	理・工・生命環境学部3学部合同のカリキュラムWG(予定)においてTA、LA活用の効果検証を行う	理・工・生命環境学部3学部合同のカリキュラムWG(予定)においてTA、LA活用の効果検証を行う	理・工・生命環境学部3学部合同のカリキュラムWG(予定)においてTA、LA活用の効果検証を行う	理・工・生命環境学部3学部合同のカリキュラムWG(予定)においてTA、LA活用の効果検証を行う	
実績					
<指標2>					
年度毎の目標	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
目標					
実績					
年度毎の目標	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	
目標					
実績					
<p>【2019年度の進捗状況・今後の取り組み】</p> <p>TA、LAの活用状況についての効果検証の方法について検討する予定である。</p>					

実施計画(タイトル)	8-(2)-① KGI・KPI の設定・活用			帳票の有無	不要
内容	<p>非営利組織である学校のマネジメントにおける最大の課題の一つは、最上位のアウトカム(成果)を定め、その達成度を測る KGI や KPI を設定することにある。学院では KPI ダッシュボード等のツールを活用して「Kwansei Grand Challenge 2039」(超長期ビジョン・長期戦略)および中期総合経営計画(実施計画・基盤計画)の進捗や達成度を含めた成果を検証する仕組みを構築する。そのために、教学・経営両面のデータ活用を司るのに最適な組織体制を確立する。また、各学校および大学の各学部も、全学の KPI と連動しながら個別の状況に合わせて独自に KPI を設定し、毎年その数値や取組状況を評価し、改善・促進の取り組みに活用する。</p>				
学部独自の取り組み内容					
<指標 1>					
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
目標					
実績	<p>※本帳票の末尾において、学修成果を測定する学部独自の KGI・KPI を策定済み。今後、これらの指標を用いて中期総合計画の達成度や成果を検証していく。</p>				
年度毎の目標					
目標					
実績					
<指標 2>					
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
目標					
実績					
年度毎の目標	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	
目標					
実績					
【2019 年度の進捗状況・今後の取り組み】					

実施計画(タイトル)	8-(10)-① 内部質保証体制の確立と運用			帳票の有無	要
内容	<p>本学には、従来から二つの大きな PDCA サイクルが存在していた。一つは中期計画(SGU 含む)であり、もう一つは大学の自己点検・評価および各学校の学校評価である。</p> <p>両者はそれぞれの目的体系を持ちながら重複する部分が多く、業務負担の軽減の観点からも、共通の目的・目標の下で学院・大学全体を見渡した統合的な PDCA サイクルの確立が必須となっている。</p> <p>このため、本学では、2019年度から各学部／研究科、短期大学・各学校が本格的に取組を開始する「中期総合経営計画」において、その取組の成果を定期的に測定、評価、改善することを通じて、効率的・効果的なマネジメントの実現を図る。</p>				
学部独自の取り組み内容					
<指標 1>					
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
目標					
実績	<p>※学部における毎年度の本帳票の作成および学内各種会議体での点検・評価、改善活動などにより、内部質保証システムの PDCA サイクルを確立する。</p>				
年度毎の目標					
目標					
実績					
<指標 2>					
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
目標					
実績					
年度毎の目標	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	
目標					
実績					
【2019 年度の進捗状況・今後の取り組み】					

(2) 選択型

実施計画(タイトル)	1-(2)-② 各学部の独自指標の設定			帳票の有無	不要
内容	<p>■本長期戦略では、「『質の高い就労』の実現」をテーマに、「就職率」「内定先の満足度」「各学部設定の独自指標」「有名400社への実就職率」「IPOの人数」「グローバル企業就職者比率」「一部上場企業社長の輩出人数」を指標とし、各フェーズ・年度における目標値を定めた。これを達成するための実施施策は、「高い『就職率』維持のための各種施策の実施」「高い『内定先の満足度』維持のための各種施策の実施」「『有名400社への実就職率』向上のための各種施策の実施」「『グローバル企業への就職者比率』向上のための各種施策の実施」そして「『各学部の独自指標』の設定」「アントレプレナー養成のための各種施策の実施」「AIを活用したキャリア支援」をあげている。</p> <p>■本帳票は、これらの内、「『各学部の独自指標』の設定」について記載する。</p> <p>■各学部はそれぞれ特色があり、人材養成像も各学部で異なる。従って、「質の高い就労」を実現するための大学全体の実施計画(指標)とは別に、独自の指標を持つ必要のある学部がある。その際に独自指標を設定する。</p>				
学部独自の取り組み内容	理工学部では長期戦略の1つとして「理系研究室の充実」を掲げており、その指標として「理工学部から理工学研究科博士課程前期課程への進学率」と「前期課程修了者の研究開発職への就職率」を設定しており、これの向上を目指して取り組む。				
<指標1>	理工学部から理工学研究科博士課程前期課程への進学率				
年度毎の目標	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
目標	45%以上	50%以上	52%以上	54%以上	
実績					
年度毎の目標	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	
目標	55%以上	55%以上	55%以上	55%以上	
実績					
<指標2>	前期課程修了者の研究開発職への就職率				
年度毎の目標	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
目標	指標を確立する	30%以上	33%以上	36%以上	
実績					
年度毎の目標	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	
目標	40%以上	40%以上	40%以上	40%以上	
実績					
【2019年度の進捗状況・今後の取り組み】					
<p>・「理工学部から理工学研究科博士課程前期課程への進学率」の向上に向けては、学部生の早期履修制度の整備を進め、2020年度より運用を開始することとなった。また、理工学部2020年度入学生に対し、入学式の際に保証人対象の説明会を行い、その中で大学院進学の魅力について説明する時間を大きく確保する予定である。</p> <p>・「前期課程修了者の研究開発職への就職率」の向上に向けては、執行部メンバーによる企業訪問の実施、修了予定者への詳細な進路把握、などを進めている。</p>					

実施計画(タイトル)	1-(9)-③ 高大連携の充実			帳票の有無	不要
内容	<p>高等部・中学部や千里国際高等部・中等部は建学の精神を共有し、特長ある一貫教育を実践し、本学の教育の根幹をなしている。それと同時に、安定した大学入学定員確保の根幹でもある。また、同一法人のそれら学校と同様に、継続校である啓明学院、提携校である帝塚山学院、そして現在 12 にのぼる協定校も本学の教育理念に共鳴し、グローバル教育・キリスト教主義教育を柱として本学を支え、同時に大学入学定員を安定的に支える存在として重要である。</p> <p>これら 16 高校との更なる高大連携事業の充実を図り、連携強化をすするとともに、これら連携校の拡大を図ることで大学入学定員の一層の安定化を図る。</p> <p>1. 協定校等の拡大 協定校は入試委員会が管理・監督を行う。協定校は毎年出身生の成績を中心に更新の検証を行っており、成績報告等大学との関係は概ね良好である。上記にも記しているとおり、本学の安定的学生獲得に貢献していることから、今後も協定校を拡大していく。ただし、現在協定関係にある高等学校との関係から同一地域などの高等学校との協定締結は慎重に行う。</p> <p>2. 高大連携事業の更なる継続・推進(全学部対象として) 現在、高等部・千里国際高等部・啓明学院・帝塚山学院などは学部選択説明会など高大連携事業は行っているが、提携校や協定校はまだ不十分である。そこで、従来の説明会を単純に増やすのではなく、大学での学びそのものや、高校と大学の学びの関連性などを伝えることにより、多様で高度な学問への関心を高めることに重きを置いた施策も検討し、さまざまな高大連携施策を再構築して体系化する。これらを高校初年次から実施することによって学びへの動機付けを行い多様な学力の向上を図る。</p> <p>3. 理工学部の高大連携による推薦協定等推進 今後、改組が予定されている理工学部であるが、現状での偏差値等評価は低く、学生募集も非常に厳しい状況である。AI など ICT 技術をはじめ、今後も理工系学問の必要性は高まりこそすれ、下がることはありえない。また、いわゆる進学校・トップ校の高等学校においては、半数から 9 割が理工系である状況を考えると、本学のブランド力維持・向上のためにも、理工系学部への安定した入学者数の確保は極めて重要である。そのため、一般選抜入試での学生募集の努力はもちろんであるが、推薦協定校等の充実・拡大による方法も改めて検討の必要がある。そこで、本学の院内校・継続校・協定校である、高等部・千里国際高等部・啓明学院・帝塚山学院などとの密な高大連携プログラム(インターンなども含む)もさらに拡充し、安定した理工系進学者の確保を行う。さらに、協定校などとの高大連携プログラムもさらに拡充し、協定校推薦による入学者数の増加も図る。</p>				
学部独自の取り組み内容	「ひらめきときめきサイエンス」への応募および実施、高校生に研究発表の場を提供するとともに高校・大学の研究交流を図る「SCI-TECH RESEARCH FORUM」の開催、各高校からの訪問受け入れ・研究室見学、等を積極的に行う。				
<指標 1>	高大連携事業の効果検証の実施				
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
目標	2021 年度以降の理・工・生命環境に建築を加えた 4 学部での高大連携事業実施体制の検討	高大連携事業の効果の検証	高大連携事業の効果の検証	高大連携事業の効果の検証	
実績					
年度毎の目標	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	
目標	高大連携事業の効果の検証	高大連携事業の効果の検証	高大連携事業の効果の検証	高大連携事業の効果の検証	
実績					
<指標 2>					
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
目標					
実績					
年度毎の目標	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	
目標					
実績					
【2019 年度の進捗状況・今後の取り組み】					
<p>「ひらめきときめきサイエンス」には6件応募し、4件が採択された。この4件について計画通りに実施し、100 名近い応募があり、結果的に 84 名の中学生、高校生を受け入れた。</p> <p>「SCI-TECH RESEARCH FORUM」は 11 月 23 日に神戸三田キャンパスで開催し、16 校 212 人が発表を行い、発表者も含めて 216 名の高校生が参加した。</p> <p>その他各高校からの訪問受け入れ、研究室見学は、8校を受け入れた。</p> <p>協定校、提携校の新規受け入れ推進を積極的に働きかけることが今後の取り組みとなる。</p>					

3. 理工学部のKPI

(1) 学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
DPIに定める資質・能力の獲得状況	あなたはこの授業を通して卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思えますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、上位2つ(A「そう思う」、B「どちらかといえばそう思う」)の回答割合(%)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
Kwansei コンピテンシー獲得状況	知識・能力・資質の程度 全項目 (「大変身について」～「全く身についていない」の5段階評価) (2018～2022年度) 当該年度卒業生と次年度1年生との調査による伸び (2023～2027年度) 当該年度卒業生とその1年生時との調査による伸び 「IR1 年生調査」「IR 卒業生調査」	5段階評価のうち、上位2つ(「大変身について」「やや身についてた」)の回答割合(%)の平均の差	現在値(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
汎用的能力の獲得状況	入学後の能力変化(表外※参照) (「大きく増えた」～「大きく減った」の5段階評価) 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、上位2つ(A「大きく増えた」、B「増えた」)の回答割合(%)	現在値(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
授業外学修時間	授業外時間に、授業課題や準備時間、復習をする時間(一週当たりの平均) 「IR1 年生調査、IR 上級生調査」	一週あたり6時間以上の割合	現在値(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
授業目的・到達目標の達成度	あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思えますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、A「そう思う」、B「どちらかというそう思う」の回答割合(%)	現在値(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
授業満足度	あなたは、全体としてこの授業に満足していますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、A「そう思う」、B「どちらかというそう思う」の回答割合(%)	現在値(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
留学等派遣数	協定校への派遣学生数 「国際連携機構資料」	大学間協定に基づく派遣日本人学生数	現在値(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
TOEIC/TOEFL等の英語運用能力	SGUの取組みで確認している TOEFL 換算得点目標の達成人数 <参考(学部別目標値)> ■国際: TOEFL 換算 550 点 ■文・総政: TOEFL 換算 540 点 ■その他: TOEFL 換算 520 点 「SGUに関する調査」	左記「TOEFL 換算得点」目標の達成人数(人)	現在値(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
学生生活満足度	大学生活を振り返って、学生生活は満足したものでしたか。(「とても満足」～「とても不満」の4段階評価) 「IR 卒業1年目調査」	4段階評価のうち、上位2つ(A「とても満足」、B「満足」)の回答割合(%)	現在値(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
就職率	就職率 「キャリアセンター統計資料」	就職者数(自営含まず) / 就職希望者数	現在値(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
大学院進学率	大学院進学率 「キャリアセンター統計資料」	大学院進学者数/学部卒業生数	現在値(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表

(※)「知識・技能・能力の獲得状況」の「知識・技能・能力」とは、一般的な教養、論理的思考力、専門分野や学科の知識、グローバルな問題の理解、多様性を尊重する力、主体的に行動する力、リーダーシップ力、人間関係を構築する力、対立する価値を調整する力、地域社会が直面する問題を理解する能力、国民が直面する問題を理解する能力、困難を乗り越える粘り強さ、文章表現の能力、外国語の運用能力、生涯にわたって学び続ける能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、数理的な能力、コンピュータの操作能力、誠実さと品位、時間を効果的に利用する能力、卒業後に就職するための準備の程度、を指す。

(2) 学部独自KPI

KPI	定義	基準	現在値 (2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本学理工学研究科への進学率	理工学部から本学大学院理工学研究科博士前期課程への進学率		非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表

(3) 学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値 (2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
入試難易度 (偏差値)	学外教育情報機関が発表する偏差値 高大接続センター		非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
同系列学部勝敗	学外教育情報機関のデータにおける同系列学部合格者の競合大学との入学比率 総合企画部	本学と相手校の両方に合格していずれかに入学した受験生のうち、本学に入学した者の比率 本学入学者数 / (本学入学者数 + 併願校入学者) (%)	現在値 (2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値 (2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
ダブルチャレンジ派遣者数	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数 グローバル化推進本部	①インターナショナルプログラム②ハンズオン・ラーニング・プログラム③副専攻プログラムのいずれかで単位取得し卒業した学生数 ※学部毎は延べ人数	現在値 (2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5段階評価のうち「満足」と回答した比率 (%)	現在値 (2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
スクールモットーの浸透度	スクールモットー“Mastery for Service”を普段意識する程度は (「常に行動の規範としている」～「全く意識しない 全く意識しない」の5段階評価) IR 卒業生調査	5段階評価のうち、A「常に行動の規範としている」または B「頻繁に意識している」と回答した割合 (%)	現在値 (2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 7 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目に対して A「そう思う」、B「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の平均値	現在値 d (2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表

理工学部実施計画・全体評価

--

責任者	理工学研究科 委員長	担当部局	理工学研究科
-----	---------------	------	--------

1 理工学研究科の理念、目的、各種方針

理工学研究科の理念	変更の有無
<p>理工学研究科は、「自然科学の基本原則とその応用について先端的研究をおこない、自然科学の発展と人類の進歩に貢献する。」ことを理念として教育と研究活動を行っている。</p>	<p>有・</p>
理工学研究科の目的	変更の有無
<p>数学、物理学、化学、情報科学、生命科学の幅広い分野にわたり、それぞれの分野が有機的に連携しながら、基礎的研究から応用的研究まで、常に最先端のレベルの高い研究を行う。専攻分野における深い知識と高度な研究能力を身につけるとともに、専攻分野を超えた幅広い知識を修め、広い観点に立って研究を行うことができる高度な専門性を必要とする職業人や研究者を育成する。</p> <p>数理科学専攻 前期課程においては、数学の基礎理論の修得を柱としながら、自然科学はもとより、社会科学への応用まで視野に入れ、数理科学の高度な知識と基礎的研究能力を養い、社会の幅広い分野で、専門性の高い職業に従事できる人材を育てる。後期課程では、数理科学の分野における自立した研究者にとって必要な高度で専門性の高い研究能力を培い、深い専門知識を必要とする分野で活躍できる人材を育てる。</p> <p>物理学専攻 前期課程では、物理学の基礎である数学の基礎学力を確かなものとし、ミクロからマクロまでの幅広い領域をカバーする物理法則のより深い理解をはかり、物理学的・論理的思考方法に立脚した実践的な研究能力ならびに英語で成果を公表できる能力を培う。後期課程では、新分野・新領域の開拓に必要な問題解決能力および自立した研究者にとって必要な創造性の育成を通して、深い専門知識を必要とする職業に従事できる能力を涵養する。</p> <p>先進エネルギーナノ工学専攻 前期課程では、エネルギー科学・工学分野における専門的な知識を修得し、エネルギー分野に関する様々な問題に対して、新たな視点から主体的に研究に取り組む能力を養い、高度専門職業人として必要な研究能力と、その成果を社会に還元するための情報発信能力を有する人材を育てる。後期課程では、先進エネルギーに関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、自立した研究者として必要な高度で専門性の高い研究能力と問題解決能力を培い、深い専門知識を必要とする分野で国際的に活躍できる人材を育てる。</p> <p>化学専攻 前期課程においては、化学における基礎から最新の化学に関する幅広い知識と深い理解力を培い、専門性の高い課題に主体的に取り組む。さらに、このような課題を解決しようとする際に要求される基礎概念を理解し、基本的な手法を修得することにより、高度な専門性を必要とする職業に従事できる人材の育成を行う。後期課程では、これに加え、創造性、独自性の高い化学研究の遂行を通して、自立した研究者としての能力を培う。</p> <p>環境・応用化学専攻 前期課程では、地球環境と応用化学に関する最新の知識と高度な実験技術を修得するとともに、これら得た知識と技術を基礎として、化学をベースとしながら他分野とも融合した複合的な視点から地球環境問題の解決に寄与するための応用能力を養う。後期課程では、環境・応用化学分野に関する幅広い知識と深い専門性を培い、さらに多角的な視点を身に付けることによって新しい課題に挑戦し、自立して研究を行う能力を養う。</p> <p>生命科学専攻 前期課程においては、生命科学分野における幅広い知識と深い理解力を培うとともに、これらの知識を基礎とした研究能力及び成果を英語で公表できる能力、さらに高度な専門性を必要とする職業に柔軟に対応できる能力を養う。後期課程では、生命科学分野において自立した研究活動を行うことができる高度な研究能力と海外でも活躍できる国際性を培い、その研究能力を生かして深い専門知識を必要とする職業に従事する能力を養う。</p> <p>生命医化学専攻 博士前期課程では、高い専門性を持った研究者や技術者を育成することを目的として、学部教育で培った医化学の基礎学力を礎とし、生命医化学分野の先端的な研究体験と専門分野の知識や技能の修得から、医化学への学識を深めるとともに、主体的に研究を行う力や応用力を醸成する。博士後期課程では、高度な研究能力と豊かな学識を持った研究者・技術者の育成を目的として、博士前期課程で学んだ医化学の知識や技能を高度化、深化させることを通じ、新たな視点から研究テーマを設定し、自立して研究を行う力を培う。</p> <p>情報科学専攻 前期課程においては、情報科学の幅広い知識と深い理解力を培い、これらの知識と理解力を基礎とした研究能力及び高度な専門性を必要とする職業に柔軟に対応し、健全な情報化社会の構想を立案できる能力を養う。後期課程では、情報科学分野において自立した研究活動を行う高度な研究能力とその能力を生かして深い専門知識を必要とする職業に従事し、さらに健全な情報化社会の構築を技術面と倫理面からリードする能力を養う。</p> <p>人間システム工学専攻 前期課程においては、人間システム工学の幅広い知識と深い理解力を培い、これらの知識と理解力を基礎とした研究能力、及び高度な専門性を必要とする職業に柔軟に対応し、人を中心とした新しいシステムを創出できる能力を養う。後期課程では、人間システム工学分野において自立した研究活動を行う高度な研究能力と、その能力を生かして深い専門知識を必要とする職業に従事し、さらに新たな価値や産業を創出する能力を養う。</p>	<p>・無</p>

学位授与方針(DP)	変更の有無
<p>本研究科は“Mastery for Service”を体現する世界市民をめざし、自然科学の基本原則とその応用について先端的研究を行っている。前期課程においては下記に示すように各専門分野における深い知識と研究能力を有する者に修士学位を与える。後期課程においては、下記に示すように各専門分野における幅広い知識・技能を修め、広い視点に立って独立して研究を行う能力を求める。加えて研究成果を学界や産業界等社会へ広く還元する能力を有する者に博士学位を与える。</p> <p>【数理学専攻】 (博士課程前期課程) <理学> ・数学領域における基礎理論を修得している。 ・数学領域において、専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。 ・社会の幅広い分野において専門性の高い職業人として活躍するため、修得した数学の知識と基礎的研究能力を活用できる。 <工学> ・数理工学領域における基礎理論を修得している。 ・数理工学領域において、専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。 ・社会の幅広い分野において専門性の高い職業人として活躍するため、修得した数理工学の知識と基礎的研究能力を活用できる。 (博士課程後期課程) <理学> ・数学領域における高度な専門知識および研究能力を修得している。 ・数学領域において、高度な専門的知識を必要とする研究課題に独立して取り組み、解決できる。 ・社会の幅広い分野において技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍するため、修得した高度な知識と研究能力を活用できる。 <工学> ・数理工学領域における高度な専門知識および研究能力を修得している。 ・数理工学領域において、高度な専門的知識を必要とする研究課題に独立して取り組み、解決できる。 ・社会の幅広い分野において技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍するため、修得した高度な知識と研究能力を活用できる。</p> <p>【物理学専攻】 (博士課程前期課程) <理学> ・物理学の重要な概念を理解し、自然現象の解析に適用できる。 ・物理学の多様な専門分野における基礎的課題に対して、物理学的アプローチと論理的思考方法を駆使し、学術研究に対する高い倫理感をもって主体的に取り組み、それを解決できる。 ・専門性の高い職業人として活躍できるだけの基礎研究能力と情報発信能力を有する。 <工学> ・物理学の重要な概念を理解し、自然現象の解析に適用できる。 ・物理学の多様な専門分野における応用的課題に対して、物理学的アプローチと論理的思考方法を駆使し、学術研究に対する高い倫理感をもって主体的に取り組み、それを解決できる。 ・専門性の高い職業人として活躍できるだけの応用研究能力と情報発信能力を有する。 <国際自然科学> ・物理学分野の研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。 ・国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。 ・物理学分野の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。 (博士課程後期課程) <理学> ・物理学に関する深い見識に基づき、新たな基礎的・根本的課題を発見する能力を有する。 ・物理学の多様な分野における高度で専門的な基礎研究課題に対して、学術研究に対する高い倫理感をもって自立的に取り組み、それを解決できる。 ・技術者や研究者をはじめとして専門性の高い職業人として国際的に活躍するために必要な創造力、高度な基礎研究能力、情報発信能力を有する。 <工学> ・物理学に関する深い見識に基づき、新たな応用的課題を発見する能力を有する。 ・物理学の多様な分野における高度で専門的な応用研究課題に対して、学術研究に対する高い倫理感をもって自立的に取り組み、それを解決できる。 ・技術者や研究者をはじめとして専門性の高い職業人として国際的に活躍するために必要な創造力、高度な応用研究能力、情報発信能力を有する。</p> <p>【先進エネルギーナノ工学専攻】 (博士課程前期課程) <理学> ・エネルギー科学・工学分野における専門的な知識を修得し、エネルギーに関する理学的・基盤的課題について解決に導くための方法を身につけている。 ・エネルギーに関する様々な理学的問題に対して、新たな視点から主体的に研究に取り組む能力を有する。 ・高度専門職業人として必要な理学的研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。 <工学> ・エネルギー科学・工学分野における専門的な知識を修得し、エネルギーに関する工学的・応用的課題について解決に導くための方法を身につけている。 ・エネルギーに関する様々な工学的問題に対して、新たな視点から主体的に研究に取り組む能力を有する。 ・高度専門職業人として必要な工学的研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。 <国際自然科学> ・エネルギーに関連したナノ材料を中心として、自然科学の研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。 ・国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。 ・専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。 (博士課程後期課程) <理学> ・エネルギー科学・工学分野の研究者として、自立して理学的・根源的な研究を行うことができる能力を身につけている。 ・エネルギーに関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その理学的課題について新たな点から研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけることができる能力を有する。 ・自身の専門とする理学分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。 <工学> ・エネルギー科学・工学分野の研究者として、自立して工学的・応用的な研究を行うことができる能力を身につけている。 ・エネルギーに関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その工学的課題について新たな点から研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結</p>	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

びつけることができる能力を有する。

・自身の専門とする工学分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。

【化学専攻】

(博士課程前期課程)

〈理学〉

- ・化学における専門的知識を必要とする基礎的な課題に主体的に取り組み、解決しようとする際に要求される基礎概念を理解し、基本的な手法を修得している。
- ・選択した化学における基礎的な研究分野においてオリジナルな研究論文を書くのに必要な知識と研究手法を修得している。
- ・選択したテーマについての化学における基礎的な研究を行い、それを学位論文として纏める事が出来る。

〈工学〉

- ・化学における専門的知識を必要とする応用的な課題に主体的に取り組み、解決しようとする際に要求される基礎概念を理解し、基本的な手法を修得している。
- ・選択した化学における応用的な研究分野においてオリジナルな研究論文を書くのに必要な知識と研究手法を修得している。
- ・選択したテーマについての化学における応用的な研究を行い、それを学位論文として纏める事が出来る。

〈国際自然科学〉

- ・化学分野の研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。
- ・国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。
- ・化学分野の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。

(博士課程後期課程)

〈理学〉

- ・化学の基礎的な分野における自立した研究者として必要な基本的な能力を身につけている。
- ・選択したテーマについて各自の発想に基づいて化学における基礎的な研究を遂行し、自らの力で学術的な新知見を得、それを学位論文として纏めるというプロセスを経験している。
- ・化学の一つの専門分野を深く研鑽することにより修得した、科学的思考とその精神を生かして国際的に活躍できる。

〈工学〉

- ・化学の応用的な分野における自立した研究者として必要な基本的な能力を身につけている。
- ・選択したテーマについて各自の発想に基づいて化学における応用的な研究を遂行し、自らの力で学術的な新知見を得、それを学位論文として纏めるというプロセスを経験している。
- ・化学の一つの専門分野を深く研鑽することにより修得した、科学的思考とその精神を生かして国際的に活躍できる。

【環境・応用化学専攻】

(博士課程前期課程)

〈理学〉

- ・環境と応用化学に関する専門的な知識を修得し、地球環境に関する諸問題について応用化学的アプローチから基礎研究に主体的に取り組み、解決に導くための方法を身につけている。
- ・地球環境に関する様々な問題に対して、主体的に基礎研究に取り組む能力を有する。
- ・高度専門職業人として必要な基礎研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。

〈工学〉

- ・環境と応用化学に関する専門的な知識を修得し、地球環境に関する諸問題について応用化学的アプローチから応用研究に主体的に取り組み、解決に導くための方法を身につけている。
- ・地球環境に関する様々な問題に対して、主体的に応用研究に取り組む能力を有する。
- ・高度専門職業人として必要な応用研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。

〈国際自然科学〉

- ・環境・応用化学分野の研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。
- ・国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。
- ・環境・応用化学分野の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。

(博士課程後期課程)

〈理学〉

- ・環境と応用化学に関する研究者として、自立して基礎研究を行うことができる能力を身につけている。
- ・地球環境に関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その課題について応用化学的観点から基礎研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけることができる能力を有する。
- ・自身の専門とする基礎研究分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。

〈工学〉

- ・環境と応用化学に関する研究者として、自立して応用研究を行うことができる能力を身につけている。
- ・地球環境に関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その課題について応用化学的観点から応用研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけることができる能力を有する。
- ・自身の専門とする応用研究分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。

【生命科学専攻】

(博士課程前期課程)

〈理学〉

- ・生命科学分野の基礎研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。
- ・専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。
- ・国際性豊かな職業人として活躍するため基礎研究の成果を英語で公表できる。

〈工学〉

- ・生命科学分野の応用研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。
- ・専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。
- ・国際性豊かな職業人として活躍するため応用研究の成果を英語で公表できる。

〈国際自然科学〉

- ・生命科学分野の研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。
- ・国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。
- ・生命科学分野の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。

(博士課程後期課程)

〈理学〉

- ・基礎研究の成果を国際誌に論文発表する能力を身につけている。
- ・幅広い生命科学領域において、高度な専門的知識を必要とする基礎的な研究課題に独立して取り組み、解決できる。
- ・国際的な技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として活躍するための問題解決能力を身につけている。

〈工学〉

- ・応用研究の成果を国際誌に論文を発表する能力を身につけている。
- ・幅広い生命科学領域において、高度な専門的知識を必要とする応用研究の課題に独立して取り組み、解決できる。
- ・国際的な技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として活躍するための問題解決能力を身につけている。

【生命医化学専攻】

(博士課程前期課程)

〈理学〉

- ・基礎医学系の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、その解決に要求される生化学や分子生物学などの知識や技能を習得している。
- ・基礎医学系の様々な問題に対して、新たな視点から主体的に研究に取り組む能力を有する。
- ・高度専門職業人として必要な研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。

〈工学〉

- ・応用医学系の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、その解決に要求される医工学系の知識や技能を習得している。
- ・応用医学系の様々な問題に対して、新たな視点から主体的に研究に取り組む能力を有する。
- ・高度専門職業人として必要な研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。

〈国際自然科学〉

- ・生命医化学分野の研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。
- ・国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。
- ・生命医化学分野の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。

(博士課程後期課程)

〈理学〉

- ・基礎医学系分野の研究者として、自立して研究を行うことができる能力を身に付けている。
- ・少子高齢化社会を健康面から支えるため、自ら研究テーマを設定し、新規な知見を得ることにより基礎医学系分野のライフィノベーションに寄与することができる能力を有する。
- ・自身の専門とする分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。

〈工学〉

- ・応用医学系分野の研究者として、自立して研究を行うことができる能力を身に付けている。
- ・少子高齢化社会を健康面から支えるため、自ら研究テーマを設定し、新たな工学技術を開発することにより応用医学系分野のライフィノベーションに寄与することができる能力を有する。
- ・自身の専門とする分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。

【情報科学専攻】

(博士課程前期課程)

〈理学〉

- ・健全な情報化社会の構築に貢献するために、情報科学の理論に関する幅広い知識と深い理解力を身につけている。
- ・幅広い情報科学領域において、専門的知識を必要とする理論的課題に主体的に取り組み、解決できる。
- ・修得した情報科学の理論に関する高度な知識と基礎的研究能力を活用し、専門性の高い職業人として活躍できる。

〈工学〉

- ・健全な情報化社会の構築に貢献するために、情報科学の技術に関する幅広い知識と深い理解力を身につけている。
- ・幅広い情報科学領域において、専門的知識を必要とする技術的課題に主体的に取り組み、解決できる。
- ・修得した情報科学の技術に関する高度な知識と基礎的研究能力を活用し、専門性の高い職業人として活躍できる。

(博士課程後期課程)

〈理学〉

- ・健全な情報化社会の構築をリードするために、情報科学の理論に関する幅広い知識と深い理解力を身につけている。
- ・幅広い情報科学領域において、高度な専門的知識を必要とする理論的研究課題に独立して取り組み、解決できる。
- ・修得した問題解決能力と情報科学の理論に関する高度に専門的な知識・思考力・理解力を活用して、技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍できる。

〈工学〉

- ・健全な情報化社会の構築をリードするために、情報科学の技術に関する幅広い知識と深い理解力を身につけている。
- ・幅広い情報科学領域において、高度な専門的知識を必要とする技術的研究課題に独立して取り組み、解決できる。
- ・修得した問題解決能力と情報科学の技術に関する高度に専門的な知識・思考力・理解力を活用して、技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍できる。

【人間システム工学専攻】

(博士課程前期課程)

〈理学〉

- ・人を中心とした新しいシステムを創出するための人間システム工学の理論に関する幅広い知識を修得し、深い理解力を身につけている。
- ・人間システム工学領域において、専門的知識を必要とする理論的課題に主体的に取り組み、柔軟に解決できる。
- ・修得した人間システム工学の理論に関する高度な知識と基礎的研究能力を活用し、専門性の高い職業人として活躍できる。

〈工学〉

- ・人を中心とした新しいシステムを創出するための人間システム工学の技術に関する幅広い知識を修得し、深い理解力を身につけている。
- ・人間システム工学領域において、専門的知識を必要とする技術的課題に主体的に取り組み、柔軟に解決できる。
- ・修得した人間システム工学の技術に関する高度な知識と基礎的研究能力を活用し、専門性の高い職業人として活躍できる。

(博士課程後期課程)

〈理学〉

- ・人を中心とした新しいシステムを創出し、新たな価値や産業を確立するための人間システム工学の理論に関する高度な専門知識を幅広く修得し、専門的な思考力・理解力を身につけている。
- ・人間システム工学領域において、高度な専門的知識を必要とする理論的研究課題に独立して取り組み、柔軟に解決できる。
- ・修得した問題解決能力と人間システム工学の理論に関する高度に専門的な知識・思考力・理解力を活用して、技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍できる。

〈工学〉

- ・人を中心とした新しいシステムを創出し、新たな価値や産業を確立するための人間システム工学の技術に関する高度な専門知識を幅広く修得し、専門的な思考力・理解力を身につけている。
- ・人間システム工学領域において、高度な専門的知識を必要とする技術的研究課題に独立して取り組み、柔軟に解決できる。
- ・修得した問題解決能力と人間システム工学の技術に関する高度に専門的な知識・思考力・理解力を活用して、技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍できる。

教育課程の編成・実施方針(CP)	変更の有無
<p>理工学研究科博士課程前期課程 カリキュラム・ポリシー 理工学研究科ディプロマ・ポリシーに基づき、必修科目と選択科目から構成される授業科目群を配置する。</p> <p>【数理学専攻】 〈理学〉 ・研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、自然科学および社会科学への応用までを目指した数学の基本的理論や知識を修得させるため、数理学基礎研究 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、数学分野における幅広い知識ならびに最新の研究についての知識の修得のために、相当数の講義科目を配置する。</p> <p>〈工学〉 ・研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、自然科学および社会科学への応用までを目指した数理工学の基本的理論や知識を修得させるため、数理学基礎研究 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、数理工学分野における幅広い知識ならびに最新の研究についての知識の修得のために、相当数の講義科目を配置する。</p> <p>【物理学専攻】 〈理学〉 ・研究室における指導をカリキュラムの核とする。先端的な基礎研究に取り組むことを通して、現代物理学の重要な概念を理解させ、自然現象への物理学的アプローチ、論理的思考方法、並びに実践的な基礎研究能力を修得させるため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について指導を行う。これらに加え、物理学の多様な分野に関する専門的知識を修得させるため、相当数の講義科目を配置する。</p> <p>〈工学〉 ・研究室における指導をカリキュラムの核とする。先端的な応用研究に取り組むことを通して、現代物理学の重要な概念を理解させ、自然現象への物理学的アプローチ、論理的思考方法、並びに実践的な応用研究能力を修得させるため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について指導を行う。これらに加え、物理学の多様な分野に関する専門的知識を修得させるため、相当数の講義科目を配置する。</p> <p>〈国際自然科学〉 ・物理学分野の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教育の核として、物理学分野の研究を遂行する能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。</p> <p>【先進エネルギーナノ工学専攻】 〈理学〉 ・研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる理学的知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における理学的・基盤的な研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、成果を論理的に説明し得る能力、学術研究における高い倫理性を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。加えて、エネルギーを「創る」、「蓄える」、「運ぶ」、「有効に使う」の 4 つの分野に対応した科目を中心に、基礎から応用までの幅広い知識に基づく深い理学的専門性を体系的かつ横断的に学修させることを目的として、相当数の講義科目を配置する。</p> <p>〈工学〉 ・研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる工学的知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における工学的・応用的な研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、成果を論理的に説明し得る能力、学術研究における高い倫理性を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。加えて、エネルギーを「創る」、「蓄える」、「運ぶ」、「有効に使う」の 4 つの分野に対応した科目を中心に、基礎から応用までの幅広い知識に基づく深い工学的専門性を体系的かつ横断的に学修させることを目的として、相当数の講義科目を配置する。</p> <p>〈国際自然科学〉 ・エネルギーに関連したナノ材料を中心として、自然科学の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教育の核として、研究を推進する能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。</p> <p>【化学専攻】 〈理学〉 ・研究室における指導をカリキュラムの核とする。特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置し、化学における基礎的な分野において、研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、高度な化学知識と最新の研究手法を修得させるために、相当数の講義科目を配置する。</p> <p>〈工学〉 ・研究室における指導をカリキュラムの核とする。特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置し、化学における応用的な分野において、研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、高度な化学知識と最新の研究手法を修得させるために、相当数の講義科目を配置する。</p> <p>〈国際自然科学〉 ・化学分野の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教育の核として、化学分野の研究を遂行する能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。</p> <p>【環境・応用化学専攻】 〈理学〉 ・研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における高度専門職業人として、研究課題の立て方の理解、基礎研究を推進する能力、地球環境に関する様々な問題に対して主体的に基礎研究に取り組む能力を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、最先端の知見について学術論文から情報を得、また自らの研究を論文としてまとめ、その成果を社会に還元するための情報発信能力を養うため、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う文献演習 4 単位を必修科目として配置する。また、環境と応用化学に関連した最先端の知識を修得し、地球環境に関する諸問題について応用化学的アプローチから基礎研究に主体的に取り組む、解決に導くための方法を身に付けさせるために、選択科目として環境分析・地球化学系、機能探索系、物質創成系の科目を中心とした相当数の講義科目を配置する。</p> <p>〈工学〉 ・研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における高度専門職業人として、研究課題の立て方の理解、応用研究を推進する能力、地球環境に関する様々な問題に対して主体的に應用研究に取り組む能力を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、最先端の知見について学術論文から情報を得、また自らの研究を論文としてまとめ、その成果を社会に還元するための情報発信能力を養うため、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う文献演習 4 単位を必修科目として配置する。また、環境と応用化学に関連した最先端の知識を修得し、地球環境に関する諸問題について応用化学的アプローチから応用研究に主体的に取り組む、解決に導くための方法を身に付けさせるために、選択科目として環境分析・地球化学系、機能探索系、物質創成系の科目を中心とした相当数の講義科目を配置する。</p> <p>〈国際自然科学〉 ・環境・応用化学分野の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。ま</p>	<input type="checkbox"/> 有・無

た、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教育の核として、環境・応用化学分野の研究を推進する能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。

【生命科学専攻】

〈理学〉

・研究室における基礎研究の活動をカリキュラムの核とし、研究を推進するための能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、基礎研究の学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、高度な生命科学の知識並びに最新の基礎研究の手法に関する知識を修得させるために、相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

・研究室における応用研究の活動をカリキュラムの核とし、研究を推進するための能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、応用研究の学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、高度な生命科学の知識並びに最新の応用研究の手法に関する知識を修得させるために、相当数の講義科目を配置する。

〈国際自然科学〉

・生命科学分野の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教育の核として、生命科学分野の研究遂行能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。

【生命医化学専攻】

〈理学〉

・研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる基礎医学系の知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、研究成果を論理的に説明し得る能力、学術研究における高い倫理性を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。加えて、「基礎医化学分野」に加え、「応用医化学分野」についても学び、それらを融合させた幅広い知識を体系的かつ横断的に学修させることを目的として、相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

・研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる応用医学系の知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、研究成果を論理的に説明し得る能力、学術研究における高い倫理性を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。加えて、「応用医化学分野」に加え、「基礎医化学分野」についても学び、それらを融合させた幅広い知識を体系的かつ横断的に学修させることを目的として、相当数の講義科目を配置する。

〈国際自然科学〉

・生命医化学分野の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教育の核として、生命医化学分野の研究を推進する能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。

【情報科学専攻】

〈理学〉

・研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、健全な情報化社会の構想の立案に資する情報科学の理論に関連した研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方などについての指導を行う。これらに加え、情報科学分野の理論に関する知識・見識の修得と専門的な思考力の養成を目的として、相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

・研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、健全な情報化社会の構想の立案に資する情報科学の技術に関連した研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方などについての指導を行う。これらに加え、情報科学分野の技術に関する知識・見識の修得と専門的な思考力の養成を目的として、相当数の講義科目を配置する。

【人間システム工学専攻】

〈理学〉

・研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、人を中心とした新しいシステムを創出する人間システム工学の理論に関連した研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方などについての指導を行う。これらに加え、幅広い人間システム工学分野の理論に関する知識・見識の修得と専門的な思考力の養成を目的として、相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

・研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、人を中心とした新しいシステムを創出する人間システム工学の技術に関連した研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方などについての指導を行う。これらに加え、幅広い人間システム工学分野の技術に関する知識・見識の修得と専門的な思考力の養成を目的として、相当数の講義科目を配置する。

理工学研究科博士課程後期課程 カリキュラム・ポリシー

理工学研究科ディプロマ・ポリシーに基づき、必修科目と「特別研究」科目を配置する。

【数理学専攻】

〈理学〉

・自然科学はもとより社会科学への応用可能な数学の高等理論を修得させるとともに、高度な研究能力と幅広い知識、国際的な情報発信能力を修得させるため、指導教員が在学期間中継続して研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

〈工学〉

・自然科学はもとより社会科学への応用可能な数理工学の高等理論を修得させるとともに、高度な研究能力と幅広い知識、国際的な情報発信能力を修得させるため、指導教員が在学期間中継続して研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

【物理学専攻】

〈理学〉

・物理学に関する広範な見識、課題を発見・解決する高度な基礎研究能力、国際的な情報発信能力の全てを修得させるため、「特別研究」において、指導教員が継続した研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

〈工学〉




・物理学に関する広範な見識、課題を発見・解決する高度な応用研究能力、国際的な情報発信能力の全てを修得させるため、「特別研究」において、指導教員が継続した研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

【先進エネルギーナノ工学専攻】

〈理学〉

・専攻分野において、高度で幅広い理学的・基盤的な専門知識、研究推進能力、研究成果の論理的説明能力、学術研究における高い倫理性を深化させるべく、「特別研究」において指導教員が継続した研究指導を行う。同時に自ら理学的・基盤的な課題を設定し、解決する能力を涵養するため、さらに、未踏の研究分野に

<p>挑戦し、その分野を国際的に先導し得る研究企画能力を育成するために、指導教員が研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる理学的・基盤的な知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。</p> <p>〈工学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専攻分野において、高度で幅広い工学的・応用的な専門的知識、研究推進能力、研究成果の論理的説明能力、学術研究における高い倫理性を深化させるべく、「特別研究」において指導教員が継続した研究指導を行う。同時に自ら工学的・応用的な課題を設定し、解決する能力を涵養するため、さらに、未踏の研究分野に挑戦し、その分野を国際的に先導し得る研究企画能力を育成するために、指導教員が研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる工学的・応用的な知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。 <p>【化学専攻】</p> <p>〈理学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究発想及び展開に基づく創造性、独自性の高い化学基礎研究の遂行と、口頭発表、論文等による成果報告を軸として、指導教員が在学期間中継続して研究指導を行う。高度な化学知識と最新の研究手法を更に修得させつつ、研究推進能力、学術論文の読解能力、専門情報の収集能力、論文作成能力、国際的な情報発信能力等の自立した研究者に必要な能力を身につけさせる。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。 <p>〈工学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究発想及び展開に基づく創造性、独自性の高い化学応用研究の遂行と、口頭発表、論文等による成果報告を軸として、指導教員が在学期間中継続して研究指導を行う。高度な化学知識と最新の研究手法を更に修得させつつ、研究推進能力、学術論文の読解能力、専門情報の収集能力、論文作成能力、国際的な情報発信能力等の自立した研究者に必要な能力を身につけさせる。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。 <p>【環境・応用化学専攻】</p> <p>〈理学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境・応用化学に関する専門的な知識を身につけ、独創性の高い基礎研究を遂行する、研究者として、自立して基礎研究を行うことができる能力を修得させるため、「特別研究」において、指導教員が在学期間中継続しての研究指導を行う。地球環境に関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その課題について応用化学的観点から基礎研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけることができ、さらに自身の専門とする分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる能力を養うため、相当数の必修科目を配置する。 <p>〈工学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境・応用化学に関する専門的な知識を身につけ、独創性の高い応用研究を遂行する、研究者として、自立して応用研究を行うことができる能力を修得させるため、「特別研究」において、指導教員が在学期間中継続しての研究指導を行う。地球環境に関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その課題について応用化学的観点から応用研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけることができ、さらに自身の専門とする分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる能力を養うため、相当数の必修科目を配置する。 <p>【生命科学専攻】</p> <p>〈理学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学に関わる広い見識を身につけ、基礎研究の活動を通じて、自律的に課題を発見し解決する高度な能力を涵養する。基礎研究に関する英語論文の読解・作成、国内外での学術発表、および活発な議論を励行し、国際的な情報発信能力の修得を目的として、指導教員が在学期間中継続して、この指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。 <p>〈工学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学に関わる広い見識を身につけ、応用研究の活動を通じて、自律的に課題を発見し解決する高度な能力を涵養する。応用研究に関する英語論文の読解・作成、国内外での学術発表、および活発な議論を励行し、国際的な情報発信能力の修得を目的として、指導教員が在学期間中継続して、この指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。 <p>【生命医化学専攻】</p> <p>〈理学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命医化学に関わる広い見識を身につけ、基礎医学系の研究を通じて、自律的に課題を発見し解決する高度な能力を涵養する。基礎医学系の研究に関する英語論文の読解・作成、国内外での学術発表、および活発な議論を励行し、国際的な情報発信能力の修得を目的として、指導教員が在学期間中継続して、この指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。 <p>〈工学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命医化学に関わる広い見識を身につけ、応用医学系の研究を通じて、自律的に課題を発見し解決する高度な能力を涵養する。応用医学系の研究に関する英語論文の読解・作成、国内外での学術発表、および活発な議論を励行し、国際的な情報発信能力の修得を目的として、指導教員が在学期間中継続して、この指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。 <p>【情報科学専攻】</p> <p>〈理学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な情報化社会の構築を技術面と倫理面からリードするための高度な研究遂行能力の養成と、幅広い情報科学分野の理論に関する知識や国際的な情報発信能力の修得を目的として、研究課題の設定、独自性の高い研究の推進、成果の発表等に関して、指導教員が在学期間中継続した研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。 <p>〈工学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な情報化社会の構築を技術面と倫理面からリードするための高度な研究遂行能力の養成と、幅広い情報科学分野の技術に関する知識や国際的な情報発信能力の修得を目的として、研究課題の設定、独自性の高い研究の推進、成果の発表等に関して、指導教員が在学期間中継続した研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。 <p>【人間システム工学専攻】</p> <p>〈理学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を中心とした新しいシステムを創出し、新たな価値や産業を確立するための高度で柔軟な研究遂行能力の養成と、幅広い人間システム工学分野の理論に関する知識や国際的な情報発信能力の修得を目的として、研究課題の設定、独自性の高い研究の推進、成果の発表等に関して、指導教員が在学期間中継続した研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。 <p>〈工学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を中心とした新しいシステムを創出し、新たな価値や産業を確立するための高度で柔軟な研究遂行能力の養成と、幅広い人間システム工学分野の技術に関する知識や国際的な情報発信能力の修得を目的として、研究課題の設定、独自性の高い研究の推進、成果の発表等に関して、指導教員が在学期間中継続した研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。 	
<p>学生の受け入れ方針(AP)</p>	<p>変更の有無</p>
<p>自然科学の基本理念とその応用について先端的研究を行い、自然科学・科学技術の発展と人類の進歩に貢献する理工学研究科の理念の下、次のような学生を求める。</p> <p><input type="checkbox"/>自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって人類の進歩に貢献しようとする学生</p> <p><input type="checkbox"/>各専門分野の十分な知識・技能を有し、それぞれの分野の高度な研究能力を修得しようとする学生</p> <p><input type="checkbox"/>身につけたコミュニケーション能力を活かし、国際的な情報発信に努める学生</p>	<p>有・</p>

学生支援に関する方針	変更の有無
<p>TA制度、RA制度などを設置して教育、研究の一端を担うことで、研究能力の向上と同時に経済的支援を行う。また、奨学金の他、研究を促進するためにいくつかの奨励制度が設置されている。また、キャンパスの立地条件と在校時間が長いという研究科の特徴を考慮して、キャンパス内で可能となる修学・生活・進路支援を実施する。障がい学生や外国人学生については専任職員を常駐させて手厚い支援を行う。</p> <p>修学支援 TA制度、RA制度を設置している。学籍異動は指導教員が面談し承認したあと学系長会議で報告する。成績不良者等は指導教員を中心に各専攻で情報共有し、適切な対応を行う。障がい学生については支援センターが中心になって支援する。学生支援機構の奨学金制度の他、学院独自のベーツ奨学金を設けている他、奨励制度がある。</p> <p>生活支援 保健センターや学生相談室があり、専任者が常駐している。大学でハラスメント委員会が設置されているほか、理工学研究科独自のハラスメント防止のための啓発プログラムを実施している。担任制度やCOD制度などを利用して学生の意見や訴えをきく。また、リムジンバスの割引、バスダイヤの改正なども必要に応じて行っている。学生食堂や学内のコンビニの営業時間の再検討、内容の充実を図る。</p> <p>進路支援 キャリアセンター主催の企業説明会、個人面談、理工学研究科OB/OGとの懇談会ほか、理工学部男女共同参画推進委員会主催のロールモデル懇談会などを開催している。</p>	有・ 
教員像	変更の有無
<p>理工学研究科は、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”を自然科学・科学技術分野で実践し、国際的に活躍する世界市民を育むことを目指している。また、「愛をもって互いに仕えなさい」を研究科のモットーとし、人間教育にも力を入れている。これらの学部の使命を達成するために求められる教員像を、次の通り定めている。</p> <p>(教育者として) キリスト教主義教育の精神を理解し、座学だけでなく実践的教育を通して学生の学修意欲を高め、学生の志や夢の実現に向けて適切に指導し、学生の成長を喜びとして誇りと情熱をもって教育に取り組む教員</p> <p>(研究者として) 専門分野において先端的研究を行い、学界や国際社会から高い評価を受け、社会に貢献し、かつ社会から尊敬される教員</p> <p>(組織の構成員として) 自らの優れた知識・能力を活用するとともに、他の教職員と協調して理工学部の発展、継続に寄与し、尊敬、信頼を得る教員</p> <p>(人として) 学識、識見はもちろん、人望、人徳、誠実さを備えた人として魅力ある教員。</p>	有・ 
教員組織の編制方針	変更の有無
<p>国際的に魅力ある研究科として、高い研究レベルを保ち、自然科学・科学技術により持続的に社会貢献できる体制を構築するために、教員組織の編成方針を次の通り定めている。</p> <p>①教員の年齢構成が、特定の年齢層に極端にかたよらないようにする。 ②女性教員を積極的に採用し、2020年4月時点で各専攻の専任教員として少なくとも1名の女性教員が在籍するようにする。 ③任期制助教枠を利用して、若手教員を積極的に採用して教育・研究の活性化を図るとともに、若手教員をサポートする体制を整備する。 ④教員の研究分野は、多様性を保ちつつ各専攻の特色を出すように配慮する。 ⑤英語のみによる修士コースを伸展させるため、英語で講義できる教員を充実させる。</p>	有・ 

2. 実施計画

(1) 必須型

実施計画(タイトル)	1-(1)-② 三つのポリシーに基づく教学マネジメントの推進(3ポリシーの見直し・検証、カリキュラム見直し・拡充、カリキュラムマップの整備)			帳票の有無	不要
内容	<p>本学は、大学として「学部の区別なく学生が共通に身に付けるべき知識・能力・資質」(「Kwansei コンピテンシー」)を時代に即して新たに定め、各学部・研究科はそれを土台に「各分野における学位授与に必要な知識・技能」であるDP(ディプロマポリシー)を策定する。このDPは、すべての学生が卒業/修了必要単位数を取得した段階で修得しているべき学修成果を表したものである。この基本原理を守るべく、学部・研究科は(a)DPの再確認(b)DPとCP(カリキュラムポリシー)の整合(c)シラバスの実質化(d)シラバスに沿った成績評価(e)DPとAP(アドミッションポリシー)の連動、を厳格に運用する。</p> <p>本学はこうした学部/研究科による三つのポリシーに基づく教学マネジメントを統括し、大学全体の内部質保証を推進することで、卒業する全ての学生の質を保証する。</p>				
研究科独自の取り組み内容	3つのポリシーについて、年度ごとに研究科委員会において内容の検証を行っている。				
<指標 1>	3つのポリシーの内容確認・検証				
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
目標	研究科委員会において内容確認・検証	研究科委員会において内容確認・検証	研究科委員会において内容確認・検証	研究科委員会において内容確認・検証	
実績					
年度毎の目標	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	
目標	研究科委員会において内容確認・検証	研究科委員会において内容確認・検証	研究科委員会において内容確認・検証	研究科委員会において内容確認・検証	
実績					
<指標 2>					
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
目標					
実績					
年度毎の目標	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	
目標					
実績					
<指標 3>					
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
目標					
実績					
年度毎の目標	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	
目標					
実績					
<p>【2019 年度の進捗状況・今後の取り組み】</p> <p>3つのポリシーについて研究科委員会において内容の確認・検証を行った。DP、CPIについては専攻、学位ごとのものを新たに決定した。</p>					

実施計画(タイトル)	8-(2)-① KGI・KPI の設定・活用			帳票の有無	不要
内容	非営利組織である学校のマネジメントにおける最大の課題の一つは、最上位のアウトカム(成果)を定め、その達成度を測る KGI や KPI を設定することにある。学院では KPI ダッシュボード等のツールを活用して「Kwansei Grand Challenge 2039」(超長期ビジョン・長期戦略)および中期総合経営計画(実施計画・基盤計画)の進捗や達成度を含めた成果を検証する仕組みを構築する。そのために、教学・経営両面のデータ活用を司るのに最適な組織体制を確立する。また、各学校および大学の各学部も、全学の KPI と連動しながら個別の状況に合わせて独自に KPI を設定し、毎年その数値や取組状況を評価し、改善・促進の取り組みに活用する。				
研究科独自の取り組み内容					
<指標 1>					
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
目標					
実績	※本帳票の末尾において、学修成果を測定する研究科独自の KGI・KPI を策定済み。今後、これらの指標を用いて中期総合計画の達成度や成果を検証していく。				
年度毎の目標					
目標					
実績					
<指標 2>					
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
目標					
実績					
年度毎の目標	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	
目標					
実績					
【2019 年度の進捗状況・今後の取り組み】					

実施計画(タイトル)	8-(10)-① 内部質保証体制の確立と運用			帳票の有無	要
内容	<p>本学には、従来から二つの大きな PDCA サイクルが存在していた。一つは中期計画(SGU 含む)であり、もう一つは大学の自己点検・評価および各学校の学校評価である。</p> <p>両者はそれぞれの目的体系を持ちながら重複する部分が多く、業務負担の軽減の観点からも、共通の目的・目標の下で学院・大学全体を見渡した統合的な PDCA サイクルの確立が必須となっている。</p> <p>このため、本学では、2019年度から各学部／研究科、各学校が本格的に取組を開始する「中期総合経営計画」において、その取組の成果を定期的に測定、評価、改善することを通じて、効率的・効果的なマネジメントの実現を図る。</p>				
研究科独自の 取り組み内容					
<指標 1>					
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
目標					
実績	<p>※研究科における毎年度の本帳票の作成および学内各種会議体での点検・評価、改善活動などにより、内部質保証システムの PDCA サイクルを確立する。</p>				
年度毎の目標					
目標					
実績					
<指標 2>					
年度毎の目標	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
目標					
実績					
年度毎の目標	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	
目標					
実績					
【2019 年度の進捗状況・今後の取り組み】					

3. 理工学研究科のKPI

(1) 学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018年度)		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
			M	D	M	D	M	D	M	D	M	D
学位授与数 (M・D・P)	修士、博士、修士(専門職)の学位授与数 (※乙号除く) 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど○ (人)	M	非公表	M	非公表	M	非公表	M	非公表	M	非公表
			D	非公表	D	非公表	D	非公表	D	非公表	D	非公表
			2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			M	非公表	M	非公表	M	非公表	M	非公表	M	非公表
就職・進路決定率 (M)	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	(就職+自営+就労継続)/(修了者- 進学者)	現在値(2018年度)		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
			非公表		非公表		非公表		非公表		非公表	
			2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			非公表		非公表		非公表		非公表		非公表	
博士後期課程への進学者数 (M)	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		現在値(2018年度)		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
			非公表		非公表		非公表		非公表		非公表	
			2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			非公表		非公表		非公表		非公表		非公表	
日本学術振興会 特別研究員数(新規) (D)	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		現在値(2018年度)		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
			非公表		非公表		非公表		非公表		非公表	
			2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			非公表		非公表		非公表		非公表		非公表	
研究者輩出数(D) (将来)			現在値(2018年度)		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
			未設定		未設定		未設定		未設定		未設定	
			2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			未設定		未設定		未設定		未設定		未設定	

(2) 研究科独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度					
前期課程修了生の研究 開発職への就職率	前期課程修了生における研究開発職への 就職率	目標 2021年度:30%以上 2024年度:40%以上 2027年度:50%以上	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表					
			2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表				
国際学会発表数	大学院生(MD含む)による国際学会の発表 数/年	目標 多ければ多いほど良い	現在値(2018年度)		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
			非公表		非公表		非公表		非公表		非公表	
			2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
非公表		非公表		非公表		非公表		非公表		非公表		

(3) 学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値 ^(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定7項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の4段階評価) IR卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目に対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の平均値	現在値 ^(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表

理工学研究科実施計画・全体評価